



太
女
宮

列氏財政論後編第二冊

2959



114
A1451
2



第三章

公債及ヒ其一國ノ經濟ニ關スル
功用

余ハ既ニ前章ニ於テ政府ガ借主ト為レル分限
ト各人ガ借主ト為レル分限トハ其間ニ四個ノ
重要ナル差別有ルヲ舉述シタリ今復タ之ヲ
約説センニ政府ガ典質ニ供ス可キ有用ノ財産
ヲ所有セサルハ是レ其一ナリ政府ハ唯通常ノ
歳入ヲ收有スルノミニシテ而シテ其歳入ハ各
人民ノ歳入ニ課徴シテ以テ成立スル者タルニ
由リ明確ニ其課徴スルヲ得可キ限度ヲ豫定

大正十一年四月
隈侯爵郵奇贈

太
政
官

ス可カラサルハ是レ其第二十リ政府ノ公債ヲ
負フヤ真ニ權理ノ存スルト否トハ之ヲ不問ニ
置クモ實際上ニ於テハ自カラ其資カノ有無ヲ
判決シ而シテ債主ニ協約ヲ要強シテ必ス之ヲ
承諾セシムルノ裁判官タルハ是レ其第三十リ
政府ハ之ヲ不死不滅ノ人ト看做ス可キ者タル
ガ故ニ償還ノ限期ヲ定ムルヲ無クシテ公債ヲ
募集スルヲ得可ク且ツ各人ニ禁スル所ノ起
債方法ヲ施用スルヲ得可キハ是レ其第四十
リ

各人モ亦均ク償還ノ限期ヲ定ムルヲ無クシ
テ私債ヲ募借スルヲ能ハサルニハ非スト雖
モ其債主ハ隨意ニ之レガ償還ヲ要催シ若ク
ハ若干ノ日數ニ先テ豫メ通告ヲ為シテ以テ
之ガ償還ヲ要催スルヲ得可キ權理ヲ有ス
ルハ蓋シ法律ノ默認スル所タリ若シ夫レ動
産ヲ永遠ニ他人ニ轉付シテ若干ノ年利ヲ收
受スル規約ヲ為スハ是レ法律ノ認識スル所
ナリト雖モ通常各人民ノ間ニ於テ斯ノ如キ
契約ヲ締結スルハ蓋シ稀有ノ事ニ属ス

又理財大會社ニ至リテハ政府ノ施用スル起
債法ヲ以テ其資本ヲ募集スルヲ得可キ者
タリ

是ヲ以テ公信用ト私信用トハ元來負債主ノ本
質ニ關シテ昭著ナル差別ノ存スル有ルヲ知
ル可シ

此ノ如ク其差別ノ本質ニ存スル故ニ世人ノ
常ニ公信用ニ關シテ誤謬ノ感想ヲ起スハ復々
深ク怪ムニ足ラス今一步ヲ進メ各種ノ公債募
起法ニシテ見特ノ政府ニ便益スル者ヲ説述セ

ナルニ及ヒテ善ク公債ノ原則及ヒ公債ノ其一
國ノ盛衰ニ影響スル結果ノ如何ヲ講究スルハ
蓋シ至要ノ事ニ屬ス然リ而シテ斯ニカメテ排
斥セサル可カラサル似非ノ論者且ツ其サニ指
摘セサル可カラサル紛錯ノ見解ハ當ニ一二ヲ
以テ計フ可カラサルナリ
允ソ理財家ハ先ツ公債ノ利害如何ニ就キテ問
題ヲ提起シ而シテ梘子公債ノ有利ヲ説キテ謂
ハラク何レノ邦國ヲ問ハス公債ヲ募起スルハ
決シテ尤ム可キノ事ニ非ス公債ハ實ニ國家ノ

緊要ニ係リ其起債額ハ即チ一國ノ財本ニシテ
而シテ其國ノ命脈ヲ繫存スル基礎ノ其一タリ
ト千八百年代ニ在リテハ此說旨ガ能ク勢カラ
社會ニ占メ當時ニ著明ナル數多ノ政事學家モ
亦其學理ヲ推演シテ之ニ左祖セリ「バントー」氏
ノ說ニ據レハ曰ク公債ノ社會ノ殷富ヲ增益ス
ルヤ其數額ニ均準スル者ナリト英國ノ理學家
「ベルケレー」氏ハ公債ヲ稱シテ金鑛ト言ヒ「ムロ
ン」氏ハ曰ク公債ヲ募起スルハ是レ猶ホ右掌ノ
左掌ニ借ルト一般ナリト「タルテール」氏ノ見解

ニ至リテモ亦之ニ異ナラス其說ニ曰ク公債ハ
決シテ其邦ヲ乏衰マシムル者ニ非スト「ゴンド
ルセ」氏モ亦殆ト之ト同一ノ見解ヲ立テ以為
ヘラク公債ヲ募起スルモ唯外國ニ向テ其利息
ヲ交付スルノ損害有ルノ外ハ復タ他ノ損害有
ルコトヲ見スト

是レ千八百年代ニ流傳セル普通ノ理者ニシテ
當時公債ヲ募起スルノ頻多ナリシハ蓋シ其影
響ニ根由セサルハアラス何トナレハ則チ政治
上ノ誤謬ナル學理ニシテ一タヒ輿論ノ承認ヲ

得レハ則テ常ニ實地ノ施政ニ向テ其影響ヲ及
ホス者タルヲ以テナリ然レ氏今日ニ於テハ世
人稍ヤ善ク斯ノ如キ誤謬ノ見解ヲ省破スル
ヲ得タリト雖モ尚ホ二三ノ學派ニモテ依然此
舊套ノ理旨ヲ主持スル者無キニ非ス彼ノ「ムロ
ン」^レ「ウガルテール」^レ及「ゴントルセル」^レ各氏ノ見解ハ
大ニ斯ノ人ヲ率ヒテ迷雾中ニ入ル、ノ東道々
ルヲ以テ痛ク之ヲ駁撃セサルヲ得ス夫レ公
債ノ利息ニ供充スル為メニ租税ヲ賦課スルヤ
是レ其債主ニ交付スル為メニスルニ外ナラサ

ルヨリシテ之ヲ猶ホ右掌ノ左掌ニ借ルガゴト
キニ譬フル立説フ如キハ實ニ其掩飾ノ怪且拙
ナル者ト謂フ可シ其見解ノ誤謬ニ涉レル所以
ハ余後文ニ於テ之ヲ批摘セシ
千八百年代ノ理財家ハ公債ヲ視テ以テ一國ノ
富饒ヲ増進スル原素ノ一ト為セリト雖モ今日
ノ理財家ニ在リテハ大抵公債ノ不正ニシテ且
ツ不利ナルヲ痛駁ス其論ニ據レハ曰ク凡ソ
公債ハ一國ノ患害ヲ為ス者ニシテ其國ノ開明
ニ進ムヲ妨ケ且ツ其國ノ深患タル戦役ヲ興

サシムル如キハ其罪皆此公債ノ一事ニ歸ス蓋
シ國民若クハ國君ハ不期未必久政略ニ其心志
ヲ傾注スルハ是レ唯タ公債ヲ募起シ見時ノ失
措ヲ將來ニ嫁シテ以テ其直接ノ責ヲ逃避スル
ノ容易ナルニ職由セスンハアラス且夫レ公債
ノ為メニ財主ノ富利ヲ加ヘ職工ノ業事ヲ間ニ
シ且ツ遊手徒食ノ浮民ヲ増ス如キハ尤モ以テ
施政ノ其宜キヲ失ヘル者ト謂フ可シト
余ハ今此反對ノ兩説ヲ覈査シテ以テ其見解ノ
共ニ誤着ニ出テタルヲ辨明セシ夫レ公債ハ

本來決シテ利害ノ繫ル所ニ非ス若シ之ガ明解
ヲ下セハ政府ガ公債ヲ募起スル信用カハ即チ
爭難ス可カラサルノ鴻利ト謂フ可シ故ニ公信
用ノ貴重ス可キハ豈ニ私信用ニ異ナルヲ有ラ
シヤ實ニ此信用カナル者ハ譬ヘハ硝藥若クハ
爆發物ノ如ク往々或ハ用方ヲ誤ルヲ無キヲ得
スト雖モ其本質ニ就キテ之ヲ言ヘハ尤モ貴重
ス可キ一國ノ鴻利タルハ決シテ疑議ヲ容ル可
カラサルナリ
余ハ斯ニ政府若クハ各人ガ此信用カラ誤用ス

ルヲ無キヤ否ヤヲ考査スルヲ要セス蓋シ理
財學ヲ講究スル論場ニ於テハ專ラ此學術ノ範
圍内ニ駐歩シテ而シテ理學若クハ政治學ノ部
域内ニ涉及ス可カラサルヲ以テナク夫レ公債
ノ以テ政府ヲシテ貨幣ノ貯蓄ヲ為シ若クハ動
産債券ノ貯蓄ヲ為スヲ免カレシムルハ即チ
其便益タルヤ復タ言フヲ族タス讀者ハ公信用
即チ政府ノ容易ニ公債ヲ募起スルヲ得可キ
能力ノ成レルニ隨テ漸次ニ戰費貯蓄ノ數額ヲ
減退セシムルヲ有ルニ注意セヨ夫レ政府ノ戰

費ヲ貯蓄スルカ若クハ公債ヲ募起スルカ此ヲ
舍ツレハ則チ必ス彼ヲ取り決シテ彼此ノ二者
ヲ併セテ之ヲ舍ツルヲ得サリシ往蹟ハ理財
家ノ未タ嘗テ明カニ之ヲ説述セル者有ラサル
ナリ凡ソ各邦國ニ於テ大抵戰費ノ貯蓄ヲ公債
ノ募起ニ換ヘテ以テ之ヲ廢止シタリ然レハ則
チ戰費貯蓄法ノ實施ヲ非認シ而シテ尚ホ且ツ
公債募起ノ原則ヲ棄却セント欲スル如キハ則
チ事實ニ齟齬スルヲ免レス余ハ將サニ後文
ニ於テ租稅ノ新課ヲ以テ公債ノ募起ニ換フル

ノ其常ニ必ス行フ可クシテ且ツ常ニ必ス利便
ヲ得ル者タルヲ論シ以テ更ニ公信用ノ大利
タルヲ明ニシ而シテ能ク其一國ノ危難ヲ拯
濟スルヲ証セントス

千八百年代ニ於テ理財家ノ主張セル意見且ツ
見今ト雖モ尚ホ尋常論者ノ主張スル意見ノ如
キハ誤謬ニ出テ且ツ危険ナル者ト言フモ蓋シ
誣ヒタリトセス夫レ邪辟ノ見解タル大概能ク
正理ヲ具スル者ノ如クニシテ理財ノ學術ニ乏
キ人ハ常ニ甚タ其駁破ノ難キニ苦シムヲ以テ

愈其害毒ヲ社會ニ流布スルヤ多キヲ見ル又一
種ノ品屬ニシテ影響ヲ社會ニ及ホスノ微少ナ
ラサル者有リ即チ銀行高及ヒ金銀運用高ノ如
キ是ナリ此等ノ高買ハ其利己ノ私心ト其慣習
ノ臆想トヲ以テシテ公債募起法ノ無害有益タ
ルヲ稱賛ス且夫レ公債ハ一國ノ首府ニ常住
スル財主及ヒ投機高ニ浮利ヲ與ヘ或ハ一時或
種ノ商業ニ繁盛ヲ見ハサシノ或ハ空華ノ福利
ヲ攫セシメ或ハ奢靡ノ幣風ヲ長セシムル等ノ
惡結果ヲ生成スルヲ有ルニ由リ一見シテ以テ

此公債ノ常ニ必ス有利ノ者ニ非サルヲ断言
シ得可キナリ
公債ノ一事ニ関スル謬説ハ其種類甚々多シト
雖モ今唯其尤ナル者ノミヲ擧クレハ則チ「ウォル
ラール」氏ノ説ニ於テ内國ノ公債ハ決シテ其邦
國ヲ乏衰ニ陥ラシメスト言ヒ「ムロ」氏ノ説ニ
於テ公債ハ猶ホ右掌ノ左掌ニ借ルガゴトクニ
シテ若千金額ノ債主ニ属スルト納税者ニ属ス
ルトハ其一國ノ繁榮ニ関係スル甚々微少ナレ
ハ孰レノ場合ニ於テモ其國ノ富饒ハ依然トシ

テ舊狀ヲ失フ下無シト下言ヘル者はレナリ其
今斯ニ此ニ説人其誤謬ニ涉レル所以ヲ指摘セ
シ夫レ公債ノ結果タル必ス若干ノ金額ヲ納税
者ニ賦課シ以テ其利息ヲ債主ニ分配スルニ至
ルハ智者ヲ俟タズテ識ル可シ然レモ若シ此
皮想ニ觀察ニ拘泥セバ則チ一國ノ富饒ヲ損ス
ル無シト誤認スル事有ラ蓋シ以テ為ラテ一
方ニ債主ハ一方ニ納税者ガ支辨スル利金ヲ領
収スルニ由リ其納税者ニ在リテハ幾多人損害
ヲ被ラシ可シト雖モ一國ノ富饒ハ依然舊狀ヲ

存シ毫々衰乏ヲ致ス下無シト然レモ更ニ一歩
ヲ進メテ以テ之ヲ論セシト要ス今夫レ一國
ノ毫モ公債ヲ負ハサル者有リト假想セヨ納稅
者ノ一方ニ於テハ財主ニ支辨スル利息ニ供ス
可キ増稅額ヲ自己ノ手中ニ握有シ財主ノ一方
ニ於テハ政府ノ公債ニ充ツ可キ資本額ヲ將テ
躬親カラ之ヲ運轉シ若クハ起業者ニ息貸シテ
以テ政府ニ稱貸スルト同一ノ利息ヲ收入ス之
ニ及シテ一國ノ公債ヲ負フ者有リト假想セヨ
財主ハ納稅者ノ支辨スルニ非サレバ則チ其政

府ニ稱貸セシ財主ノ利息ヲ收ムル下能ハシ納
稅者ハ年ニ其收入ハ幾分ヲ割テ以テ之ヲ納メ
サル下ヲ得ス是ニ錄リテ之ヲ觀ル則チ人能ク
此ニ個ノ場合ニ存スル差異ヲ領會スル下得
可シ之ヲ約説スルハ則チ若シ公債ノ在ル有ル
ヤ納稅者ハ必ズ其損害ヲ受ケ若シ公債ノ在ル
無キヤ納稅者ハ其利益ヲ享ケテ而シテ財主モ
亦其利益ヲ失フ所無シ今試ニ「公債」氏ノ此
喻ヲ假リテ之ヲ言ハシニ若シ公債ノ在ル有ル
ヤ右掌即チ納稅者ニ若干ノ金額ヲ左掌即チ

債主ニ交付シ若シ公債ノ在ル無キヤ兩掌共ニ
其金額ヲ握有シテ絲毫ノ損失ヲ受クルト無シ
乃チ此レ豈ニ遠ク彼レニ優レルト無カラニヤ
余ハ既ニ起債ノ目的タル若干ノ利息ヲ支辨シ
或ハ豫定ノ期限ニ照シテ母金ヲ償還スル義務
ヲ負擔シテ以テ他人ノ財本ヲ自在ニ使用スル
ニ在ルトヲ説述セリ而シテ此事ヤ本来利害ヲ
繋ル者ニ非ス唯借主ノ財本ヲ使用スル方法ノ
如何ニ関シテ或ハ利益ト為リ或ハ損害ト為ル
例ハ借主ガ産殖ノ目的ヲ以テ財本ヲ共同工

作節子鑄道運河港埠及ヒ學費ヲ修築スルハ用
費ニ充支スル有レハ則チ起債ノ為メニ社會
ニ損害ヲ及ボスト無カル可シ啻ニ然ルニナ
ラス若シ其共同工作ノ豫圖ヲシテ此ニモ滲漏
ノ誤リ無カラシム且ツ務メテ其用費ヲ節約セ
シメハ則チ能ク人民ヲシテ鴻利ヲ享受セシム
ルを得ヌ期ス可キナリ何トナレハ則チ此場合
ニ於テ公債主内公債ニ供充スル金額ハ以社會
ノ流通ニ資スルト無キト雖モ變シテ鑄道運河
港埠等ノ便益ト為リ以テ社會ニ利スル所有レ

ハナリ
夫レ唯々各人ノ直接ニ創興スル工作ノミヲ
以テ社會公同ノ利益ヲ為ス者ト認識スル如
キハ實ニ誤見ノ甚シキ者ト謂フ可シ世人往
々ニ以為ヘラク今一線ノ鑄道ヲ構築セント
欲シテ若シ是ガ為メニ支消ス可キ資本ヲ償
フニ足レル純益ヲ収得スルト能ハサレハ則
チ其鑄道構築ノ心算ヲ廢シ而シテ別ニ他ノ
貴工作ヲ創興スルニ如ク是レ則チ全ク測
算ノ精覈ヲササルニ坐スルハ謬説ナリ凡リ

録道ヲ構築スルヤ一キロメノ路線毎
ト三十萬「フ」乃至十五萬「フ」費用ヲ
要スル者ノ如キハ宜ク政府ニ於テ之ヲ構築
スヘシ今夫レ一キロメノ路線毎ト三
十五萬「フ」ノ構築費用ヲ要シ而シテ一
キロメノ路線毎ト八千「フ」ノ總収入額ヲ
得ル者ト為サシニ汽車運轉ノ雜費ヲ扣除ス
レバ僅カニ一千「フ」乃至二千「フ」ノ贏
餘有ルニ過キス然リ而シテ縱令此鑄道ノ
株主其財本ヲ折損スルコト有ルモ決シテ一

大
文
宮

國ノ財本ヲ喪失スルニ非ス其故何ゾヤ凡ソ
此鑄道ノ一「キロメートル」毎トニ大約五萬噸ノ
貨物ヲ運輸シ而シテ一噸毎トニ平均十「サ
ン」ムノ運賃ヲ得ル者トセハ則チ五千「サ
ン」ノ總収入額ヲ得可ク又其乗客ノ賃錢ハ大
約三千「フラン」ノ總収入額ヲ得可シ然ルニ若
シ陸路ヲ以テ運輸スルヤ一噸ノ貨物ハ其賃
錢一「キロメートル」毎トニ二十五「サン」ム
乃至三十「サン」ムニ下ラス是レ鑄道ト陸
路トヲ比較スルニ鑄道ハ一噸ノ貨物ヲ運輸

スルニ大約十五「サン」ムヲ運賃ヲ節減ス
ルヲ得可シ故ニ五萬噸ノ貨物ヲ運輸スル
ヤ大約七千五百「フラン」ノ運賃ヲ節減スル
ヲ得ルノ比例ナリ此七千五百「フラン」ヲ其貨
物ノ製出者ト消費者トノ手中ニ貯存スレハ
則チ必ス構築資本金ノ為メニ通常ノ利息ヲ
生出セシ是レ余カ上文ニ於テ縱令七株主ハ
財本ヲ折損スルヲ有ルモ決シテ一國ノ財本
ヲ喪失スルニ非スト言ハル所以ナリ今ヲ距
ルニ年以前ニ工師「ブツ」氏ノ著述セル鑄

太
文
宮

道要論ニ依ルニ曰ク凡ソ鑄道ノ敷築ハ或ハ
其起業者ニ直接ノ利益ヲ與フル無キモ亦一
國ノ經濟上ヨリ觀察ヲ下タセハ則チ大ニ間
接ノ利益ヲ社會ニ與フル者タリト故ニ政府
ハ若シ能ク濫冗ノ經費ヲ節約スレハ饒使ヒ
其支消スル金額ヲシテ直接ノ利息ヲ生出セ
シムルヲ無キモ亦鑄道其他ノ工作ヲ舉行ス
ルヲ得可シ然レモ專ラ華飾ニ供スル目的
ニ出ル工作ノ如キハ嚴ニ之ヲ舉行ヲ戒止セ
スニハアル可カラス且夫レ既成ノ線路ヲ毀

撤シテ新奇ノ線路ヲ敷築スルハ亦是レ著大
ナル間接ノ利益有ルヲ見サルナリ然レモ
然レモ若シ政府ガ其募借セル公債金額ヲ以テ
之ヲ王家ノ娛樂ニ供シ若クハ華飾ノ建築ニ充
テ若クハ無益ノ工作ニ用フル如キ濫浪ノ費途
ニ支消スルト有レば必ス其一國ノ財本ヲ衰減
セシムルニ至ル可シ何トナレハ則チ財主人有
用ノ資本ヲ以テ金ク濫費ニ支消シ而シテ城闕
宮殿若クハ華飾ノ建築ノ如キ毫毛利益ヲ増殖
セサル工作ヲ成就セシムルニ過キサルヲ以テ

ナリ
故ヲ以テ政府ノ公債ハ政府ノ財主ノ供出セル
資本ヲ保存シ及ヒ之ヲ利用スルト若クハ其之
ヲ濫費シ及ヒ之ヲ蕩盡スルトニ隨テ或ハ社會
ノ利益ヲ為シ或ハ社會ノ損害ヲ為ス之ヲ昔時
ニ証徴スルニ君主ノ情慾若クハ政府ノ失措ヨ
リシテ全ク公債金額ヲ無用ノ事業ニ消費シ以
テ公信用ヲシテ徒ラニ有害ノ器械タラシメタ
ルノ例蹟公舉テ計フ可カラス然ルコト或者カ此
論旨ヲ駁難シテ是レ人ハ其四官ノ嗜慾有ルガ

為メニ屢々大罪ヲ犯スニ由リ寧ロ其四官ヲ絶
タシムルヲ望ムニ異ナラスト言スル如キハ
真ニ誣妄ノ太甚キ者ト謂フ可シ
又他ノ論者ハ公債ヲ募起スルノ利便ナルヲ
稱賛シテ曰ク凡ソ公債ハ各人ノ節儉貯蓄セル
財本ヲ以テ確實ノ息貸ニ充ルヲ得セシムル
者タルニ由リ能ク一國ノ社會ヲ舉ゲテ節儉ヲ
尚フノ風習ヲ養成セシムト洵トニ此説ノ如ク
幾分ノ影響ヲ社會ニ及ホスハ蓋シ其レ然ラン
凡ソ巨額ノ公債ヲ募起スルニ當リ若シ納金ノ

便利ヲ量ルガ為メニ數回ノ限期ヲ立テ且ツ務
メテ其期間ノ日數ニ餘裕有ラシムニ於テハ則
チ資カヲ有スル者ト其他ノ人トヲ問ハス各自
豫メ節儉ヲ加ヘテ羸存ス可キ金額ヲ按算スル
コトヲ得テ以テ公債加入簿ニ記名シ然ル後ニ實
際ニ其家計ヲ節儉スルニ至ル可キハ復タ疑ヲ
容レス是レ嘗テ佛國ニ於テ二十億萬「フ」ラ「シ」及
ヒ三十億萬「フ」ラ「シ」ノ公債ヲ募起セルコト有ルニ
當リ見ニ事實ニ証徴シタル所ニシテ蓋シ少額
ノ資本ヲ數次ニ供出シ以テ容易ニ其利息ヲ收

得セシムルハ能ク節儉ヲ勸奨スルノ一大要法
ト謂フ可キナリ余ハ斯ニ一個ノ近例ヲ舉示セ
シニ三十億萬「フ」ラ「シ」實額三十四億九千八百萬
「フ」ラ「シ」ノ公債ハ表額百「フ」ラ「シ」ニ向テ八十四「フ」
ラ「シ」五十「サ」シ「キ」ノ實額ヲ供出セシメテ以
テ百五ノ利息ヲ賦加ス可キコトヲ約束シ下文ノ
限期ニ照シテ其實額ノ母金ヲ供出セシメタリ
凡ソ公債ノ表額タル大概其實數ニ適合セス
何トナレハ則チ公債表額ノ計内ニハ其募集
ニ関スル費用及ヒ利息ヲ算入セサルヲ以テ

ナリ千八百七十一年ニ募起シタル佛国公債
ノ如キ其表額ハ之ヲ二十億萬「フラン」ト稱セ
シモ其實額ハ二十二億二千五百萬「フラン」ニ
上ホリ又其翌年ニ募起シタル三十億萬「フラ
ン」ト稱セシ公債ノ如キモ亦其實額ハ三十四
億九千八百七十四萬四千六百三十九「フラン」
ニ上ホレリ

其第一ノ限期ニ供出ス可キ金額ハ十四「フラン」
五十「フラン」千「ム」ニシテ爾後ノ二十ヶ月ハ毎月
三「フラン」五十「フラン」千「ム」ヲ供出スル者ト為セ

リ此ノ如ク每期ニ供出スル金額ノ甚タ少ナク
シテ且ツ此ノ如ク其期間ニ餘裕ヲ與フル如キ
募集法ヲ以テスレハ則チ微小ノ資本ヲ有スル
者ト雖モ自カラ能ク節儉ヲ加ヘテ貯蓄ヲ為シ
以テ公債ニ加入スルニ至ラシムルマ斷シテ知
ル可キナリ試ニ思ヘ平常ノ日ニ在リテハ人皆
餘贏ノ資本ヲ貯蓄銀行ニ寄托シテ以テ唯輕微
ノ利息ヲ收受スルノニ非スヤ故ヲ以テ貯蓄
銀行ノ設置ハ未タ人ヲシテ勵精以テ資本ヲ贏
存セシムルノ功用ヲ見ハスニ足ラス之ニ反シ

テ公債ヲ募起シ其母金ノ分納限期ヲ數回ニ定
ムルハ則チ是レ上中社會ノ人ヲシテ皆能ク常
ニ節儉ヲ守リテ以テ其資本ヲ贏貯セシムルニ
足ル可キ功用ヲ見ル可シ大凡ソ人ハ其福利ヲ
將來ニ期望シ且ツ其費用ハ之ヲ實支スルヨリ
モ少数ニ按算シ而シテ其資本ハ之ヲ見有スル
ヨリモ多数ニ按算スルヲ常トス是ヲ以テ若シ
公債ヲ募起スルニ當リ數回ノ分納限期ヲ指定
シテ以テ其母金ヲ供出スルコトヲ得セシムルハ則
チ將來ノ贏餘ヲ誤算スル人ヲシテ其豫算ニ違

ハザルガ爲メニ常チ能ク節儉ヲ守リシムルコ
トヲ得可シ也
餘千八百七十三年某ノ月日巴黎府第一銀行商
會ガ余ニ告クル所ノ言ニ依レバ此ニ次ノ大公
債ニ應スル債主ガ皆分納限期ニ照シテ母金
其ヲ完納スル爲メニ各自其家計ヲ節儉シタル
事ハ即チ凡百人奢侈物品ノ市場ニ售ラレサル
原因ノ其一ナリト此銀行高ノ觀察タリ能ク
余ヲシテ感悟スル所ノ者有ラシム抑モ此觀
察ハ稍ヤ其實ニ過タル者無キニ非ズ

亦幾分カ此理由以存スル有ルハ蓋ニ疑ヲ容
レサルナリ計五十年會合者其間ハ此
是ヲ推シテ之ヲ言ヘハ公債ノ以テ能ク節儉ノ
志氣ヲ鼓舞スル有ルハ洵トニ然リトス然レモ
其能ク一國社會ヲ舉ケテ之ヲ節儉ニ誘導スル
ヲ口實ト為シ以テ公債ヲ募起スルモ亦是レ正
道ニ適フ者ト謂フニ非サルナリ夫レ財主方節
儉羸蓄ニテ以テ公債ニ供出スル金額ハ唯公債
總額ノ一小部分ニ充ルニ止マルノニ然レハ則
チ若シ其公債金額ヲ以テ無益ノ費用ニ支消ス

此月有則必縱令一國社會ヲ鼓舞シテ以テ節
儉ニ誘導スルモ其益固ヨク其損ヲ償フコト能ハ
ス豈ニ十億萬ノ大額ヲ空ク支消シ而シテ僅カ
ニ五千萬乃至十億萬ニ滿タリ節儉羸蓄ヲ
勸奨シ得タルヲ以テ能ク好結果ヲ収メテ事
言フニ理財家有以テヤ其益固ヨク其損ヲ償フコト能ハ
又公債對一國ノ財計ニ影響ヲ波及スル結果タ
ルヤ國民ヲ以テ勤産債券ノ性質亦其功用下ヲ
解知セシメ隨テ到處ニ普通ノ信用ヲ傳播シ且
ツ起業ノ志氣ヲ振暢セシムルニ在リ今時開明

ノ邦國ニ於テモ在野ノ人民及ヒ下等社會ニ伍
スル勤儉ノ人民ハ猶ホ往々ニ動産債券ニ信用
ヲ置カスレテ或ハ其羸蓄セシ資本ヲ失フ有ラ
シトテ懼ルカ爲メニ之ヲ高會ニ貸付シ若ク
ハ資本ノ有無ヲ確知セサル高人ニ貸付スル
ヲ忌避スルノ慣習無キニ非ス是ヲ以テ通常其
資本ヲ金匣ニ貯藏シテ全ク其増殖ノ功用ヲ失
ハシムルコトヲ免カレス然リ而シテ公債ノ普通
募集方法ヲ以テ之タル者ハ尤モ能ク此等ノ
人民ノ慣習ヲ革除スルニ與リテ大ニ力有リ蓋

シ政府ノ能ク償還ノ資カヲ有スルハ世人ノ尤
モ親易キ者ナルヲ以テ之ニ其貯蓄資本ヲ貸付
スルニ至ラシメタルヲ以テナリ是ニ於テ始メ
テ社會一般ニ動産債券ノ功用ヲ尚ヒ未タ幾ク
ナラスレテ漸クニ政府ノ公債証各ヲ厭忌シ遂
ニ都府高會若クハ鑄道會社ノ募債ニ應ジ其貯
蓄資本ヲ貸付スルノ情勢ニ傾向セリ故ヲ以テ
公債ハ歐羅巴各國ノ爲メニ一方ニ在リテハ無
名會社若クハ共同起業會社ノ信用ヲ生成セシメ
一方ニ在リテハ暗害ノ貯藏貨幣ヲ減少セシメ至

レリ是レ佛國財政歴史於テ明徴スル所ノ情狀之
千八百三十年ニ當リ佛國ニ於テ百五ノ公債証
各ヲ齊有セル人負八十萬八千四百九十三人ニ
レテ其利金ノ總額ハ一億二千六百七十八萬六
千九百七十一「フ」ラ「シ」ニ上レリ之ヲ各債主ニ派
分スレハ則テ每一人ニ百十五「フ」ラ「シ」ノ比例ニ
該當ス又同年ニ於テ百三ノ公債証各ヲ所有セ
ル人負ハ一萬六千五百三十九人ニシテ其利金
ノ總額ハ三千九百三十七萬七千零四十七「フ」ラ
「シ」ニ上レリ之ヲ各債主ニ派分スレハ則テ每一

人ニ二千二百二十「フ」ラ「シ」ノ比例ニ該當ス此ニ
由リテ之ヲ觀ハ假令ヒ一人ヲシテ數面ノ公債
證書ヲ所有スル者無シトスルモ當時債主ノ員
數ハ唯十二萬五千人タルニ過キサル「フ」ラ「シ」知ル
可シ
當時債主ノ負數此ノ如ク少數ナリシハ蓋シ理
勢ノ然ラシムル者有リ何トナレハ則テ當時公
債ノ少額ナル之ヲ見今ニ比スルニ固ヨリ同日
ノ論ニ非サルヲ以テナリ然リ而シテ今茲ニ當
時債主ノ地位如何ヲ確查スルハ最モ緊要ノ事

ニ屬ス當時ニ在リテハ百五ノ公債證書所有主
ヲ大中小ハ三部ニ分テ之ヲ簿記セリ之ヲ查
スルニ千八百三十年ニ於テ五十「ラ」以下ノ
利息ヲ收ムル者ハ内外国人ヲ合セテ其員數ハ
千人ニ過キス而シテ其公債證書所有主ノ員數
ハ十萬八千四百九十三人ナルヲ以テ之ヲ觀レ
ハ公債小所有主ノ員數ハ僅ニ十三分ノ一ニ居
レリ此五十「ラ」以下ノ利息ヲ收ムル公債証
書所有主ノ八千人ニ加テ可キ一萬二千人ノ所
有主無キニ非ス當時之ヲ州内債主ト稱セリ蓋

シ初ノ各州内ニ於テ公債ノ募金ヲ徵收シタル
ヲ以テナリ此州内應募金ノ總額ハ七百萬「ラ」
ンニシテ即チ一人ニ大約五百九十「ラ」ニ平
均ニ相當スト雖モ各自ノ公債額ハ大中小ノ部
別帳簿ニ徵ス可キ者無シ今姑ラク州内債主ノ
半數ヲ以テ五十「ラ」以下ノ部分ニ屬スル者
ト為スモ公債小所有主ノ總員ハ尚ホ一萬四千
人ニ過キス然レハ則チ債主總員ノ八分ノ一ニ
超上セス豈ニ甚タ少ナシト謂ハサル可ケシヤ
此ノ如ク公債証書ノ所有主甚タ少ナクシテ且

ツ州内ノ人民ハ概子他種ノ動産債券ヲ知ラザ
ル如キ時世ニ於テ貨幣ヲ密藏スル慣習ノ大ニ
流傳セシハ言ヲ待タスレテ瞭然ナリ今日ニ在
リテモ尚ホ此慣習ノ遺存スル無キニ非スト雖
モ鑄道株券地券會社証券及ヒ都府公債証券等
ノ流通スルニ隨テ漸次ニ其跡ヲ絶ツノ情勢ニ
傾向スルニ至レリ

千八百五十二年以降我カ佛國ニ於テ公債應募
者ノ負數漸次ニ增多スル實況ヲ示セハ千八百
五十四年ニ當リ二億五千萬フランノ公債ヲ募

起セルヤ其應募者ノ員數ハ九萬九千二百二十
四人ヲ算シ千八百五十五年ニ當リ五億萬フラン
ノ公債ヲ募起セルヤ其應募者ハ十八萬零四
百八十人ヲ算シ而シテ同年ノ末尾ニ募集セル
七億六千萬フランノ公債ノ應募者ハ三十一萬
六千九百七十六人ヲ算シ千八百五十九年ノ公
債ニハ其應募者六十九萬零二百三十人ヲ算シ
千八百六十三年ノ公債ニハ其應募者五十四萬
一千九百九十三人ヲ算セリ此最後ノ應募者ノ
計内實ニ減除スルヲ得サル負數ハ四十萬千

八百五十九人ナリキ又千八百六十八年ノ公債
ニハ其應募者八十三萬二千七百九十八人ニシ
テ此計内實ニ減除スルヲ得サル員數ハ六十
七萬二千九十三人ノ多數ナルニ至レリ此ヨリ
以後ニ募起シタル二回ノ公債ニ関シテハ其應
募者員數ノ精算ヲ缺ケリ千八百七十三年三十
億萬「フラン」ノ公債ヲ募起スルニ當リテハ其應
募者九十三萬四千二百七十六人ノ多數ニ上レ
リ
千八百七十七年ノ會計年度ニ於テ會計宰相

ノ歳出豫算書ニ副スル報告計表ニ照依スル
ニ千八百七十年六月十六日ヲ以テ計査シタ
ル公債証書ノ面數ハ百十八萬七千二百九十
個ニシテ之ヲ細別スレハ則チ百四半ノ記名
公債証書ノ面數ハ十一萬六千三百七個百三
ノ記名公債証書ノ面數ハ四十九萬千三百三
十七個百四半ノ州内公債証書ノ面數ハ一萬
五千九百七十五個百三ノ州内公債証書ノ面
數ハ十七萬零二百十九個及ヒ百三ノ間性公
債証書ニ記名公債証書ニシテ利息ヲ交付ス可
キ者ヲ云フ

太
收
官

數ハ七萬千七百五十四個ト為ス之ヲ合算ス
ルニ八十六萬五千五百九十二個ナリ此他ニ
百四半ノ無記名公債証各ノ面數ハ二萬四千
五百二十六個ヲ算シ百三ノ無記名公債証各
ノ面數ハ二十九萬七千七百七十二個ヲ算ス今
此前後二種類ノ公債証各ノ面數ヲ合算スレ
ハ千百十八萬七千二百九十個ニ上レリ人若
シ公債証各ノ面數ト其所有主ノ負數ト同一
ナル者ト認メハ則チ誤謬ニ陷ルトヲ免カレ
ス蓋シ一人ニシテ數面ノ無記名公債証各ヲ

所有シ又百三ノ記名公債証各ト百四半ノ記
名公債証各トヲ併セテ所有スル者モ亦多シ
トス加之ノミナラス一人ニシテ同一種類ノ
記名公債証各ヲ數次ニ收買シ以テ許多ノ面
數ヲ所有スルトヲ得可シ故ニ若シ之ヲ算勘
スレハ則チ千八百七十年以前ニ於テ各種公
債証各ノ所有主ハ其負數唯五十五萬人乃至
六十萬人ニ超過セサル者ト推定セサル可カ
ラス又此報告計表ニ照依スルニ千八百七十
六年ニ發行セル公債証各ノ面數ハ四百十七

萬二千三百十三個ナルガ故ニ其所有主ノ負
數ハ遙カニ此ヨリモ減少ス可キハ蓋シ疑ヲ
容レズ而シテ此公債証各ノ大半ハ無記名ノ
者ニ係ルニ由リテ之ヲ觀レハ千八百七十二
年以來政變ノ情勢自カラ無記名ノ公債証各
ヲ擇マシメルヲ知ルニ足レリ此四百十七
万二千三百十三面ノ計内其二百二十六万千
九百三十五面ハ即チ百五ノ無記名公債証書
ニシテ其六十二万四千五百九十九面ハ即チ
百三ノ無記名公債証各ニ係リ而シテ其三万

六千零零八面ハ即チ百四半ノ無記名公債証
各ニ係ル之ヲ合算スレハ二百九十二万二千
五百四十二面ハ全ク無記名公債証各ニシテ
其残計百二十四万九千七百七十一面ハ即チ
各種ノ記名公債証各ニ係ル者トス千八百六
十九年ヨリ千八百七十六年ニ至ルマテ記名
公債証各ノ面數ハ一倍ヲ加ヘスレテ無記名
公債証各ノ面數ハ八倍乃至九倍ヲ加フルニ
至レリ今假リニ其所有主ハ一人ニシテ數面
ヲ所有スル者ト抵算スルモ佛國內ニ於テ其

所有主ノ負數ハ一百万人ニ超上スル者トハ
推是ス可カラス英國ノ如キハ千八百七十六
年一月五日ノ計査ニ照依スルニ百三ノ不動
公債証券ノ所有主ハ唯十万八千三百九十二
人ニ過キサリキ

上文ニ説示スル所ニ就キテ之ヲ觀ハ則チ公債
証券ノ世上ニ流布スルヤ尤モ迅速ニシテ陋室
矮屋ニ住スル細民ト雖モ亦舊慣習ヲ一變シ各
自ニ貯藏セル貨幣ノ數額ヲ痛減シテ以テ公債
証券ヲ所有セニト欲スルニ至リシヲ知ルニ

足ル可シ若シ夫レ都府公債証券、鑄道會社証券
及ヒ地券會社証券ノ公債証券ニ次キテ世人ノ
所有ニ歸シタル數額ハ今得テ之ヲ詳計ス可カ
ラスト雖モ要スルニ政府ノ信用ハ無名會社ノ
信用ヲ佛蘭西國內ニ樹テシメ以テ其人ノ署名
ヲ付セル一片ノ紙票ニ信用ヲ置クノ慣習ヲ成
スニ至ラシメタルハ胡ソ疑ヲ容ル可ラニヤ
夫レ然リ然リト雖モ數々巨額ノ公債ヲ募起セ
シガ為メニ信用ノ結果ニ或種ノ幣害ヲ來タシ
タルハ讀者ノ宜ク注目スヘキ所ナリ夫レ一國

ノ政府ニ於テ公債ヲ募起スルヲ愈々頻多ナレ
ハ則チ信用ハ愈々其首府若クハ其他方ノ重要
ナル高人會場ニ輻湊シ隨テ一國ノ資本モ亦此
ニ輻湊スルガ為メニ各地方ノ起業ニ大害ヲ波
及スルヲ免レス是レ公信用ノ漸次ニ擴張シ
タルハ一國ノ大患ナリト喋々スル論者ノ佛國
ニ對シテトセサル所以ナリ然レモ此見解タル
誤謬モ亦甚シキ者ト謂フ可シ何トナレハ則チ
公信用ヲ中央ニ輻湊セシムルノ節度ヲ過キ且
ツ公債ヲ募起スルノ頻數ニテ以テ一國ノ各地

方ニ散布セル資本ヲ中央ニ噲集スルニ至リテ
始メテ一國ノ患害ト稱ス可キヲ以テナリ抑モ
論者ノ説ニ依レハ曰ク地方人民ノ節儉ニテ以
テ多少ノ資本ヲ貯蓄スルモ公債ヲ募起シテ之
ヲ政府ニ收集シ以テ無益ノ事業ニ浪費シ或ハ
之ヲ巴黎府ノ地券會社ニ收集シ以テ市街ノ奢
靡ナル建造物ノ工費ニ支消ス是レ此金額ヲシ
テ其能ク農業ヲ興シ土地ヲ肥シ及ヒ糧菑ヲ産
出スルノ功用ヲ失ハシムルナリ且夫レ此ノ如
ク各地方ノ資本ヲ都府ニ收集スレハ其人民モ

亦之ヲ趁フテ都府ニ移住シ遂ニ田野ヲシテ荒
蕪ニ委セシムルニ至ル可シト是レ即チ論者ガ
政府ノ信用及ヒ公債ニ向テ痛撃ヲ加フル重要
ノ論点ナリ

此駁説タル頗ル能ク實地ニ切当スルヲ無キニ
非スト雖モ其患害ノ原因ハ本来公信用ニ存ス
ルニ非スモテ信用ヲ中央ニ輻湊セシムルノ推
衡ヲ乘ラス且ツ公債ヲ募起スルノ節度ヲ量ラ
サルニ在リ夫レ一國ノ政府ガ其募起スル公債
ノ金額ヲ戦争ノ費用若クハ無益ノ事業ニ浪支

セル例蹟ハ實ニ多カラサルニ非サルナリ然レ
凡此等ノ失措ハ君主宰臣ノ情慾若クハ誤惑ノ
輿論ニ原因セル者ニシテ決シテ其罪ヲ公債ニ
歸スルヲ得可ラス又大都邑ニ於テ或種ノ
土工ヲ創興スル為メニ巨額ノ資本ヲ其州内ニ
募集シテ以テ之ヲ奢靡ノ費用ニ支消セル例蹟
ヲ見サルニ非ス是レ甚々嘉稱ス可キノ事ニ非
スト雖モ顧ミテ一方ヲ着レハ則チ公信用ヲ擴
弘シテ能ク佛蘭西全國內ノ邊陲ニマテ普及セ
シメ而シテ共同起業ノ創興ヲ容易ニシ以テ全

太
政
官

國各地方ニ便益ヲ與ヘタルニ非スマ夫ノ鑄道
敷築ノ如キハ其功用實ニ尤モ大ナリト謂フ可
シ
是故ニ公債ノ利害得失ヲ評論シテ其公平至當
ヲ得ニトテ欲セハ則チ公債ヲ庇護スル論旨ト
之ヲ駁撃スル論旨トヲ折衷シテ以テ其肯綮ヲ
得ルヲ要ス夫レ政府ノ發行セル公債証各小嘗
テ其他ノ動産債券ヲ通用セシムルノ本鐸ト為
リ以テ一國人民ヲシテ動産債券ノ利便ヲ愛重
セシムルノ慣習ヲ誘進シタルハ洵トニ然リ然

レ其弊ヤ信用中央都府ニ輻湊セテ各地方
方々起業及ニ結社ヲシテ極メテ難カラシムル
コトヲ致セリ蓋シ小財主及ヒ小心者ノ如キハ政
府ノ公債若クハ政府ノ保証スル大會社ノ証券
ニ非サレハ則チ信用ヲ置カサルカ故ニ之ヲシ
テ所在ノ地方ニ於テ敢テ改良ノ工事ヲ創興ス
可キ起業會社ヲ結成スルノ志氣ヲ振暢スル
能ハサラシメタルニ由リテナリ試ニニ白耳義
ノ景況上佛蘭西ノ景況トヲ比較シテ之ヲ觀ヨ
比耳義ニ於テハ公債ヲ募起スル甚タ稀少ナル

毛佛蘭西ニ於テハ極々頻數ニ涉リ而シテ白
耳義各地方人民ノ起業結社ノ志氣ハ佛蘭西人
人民ヨリモ復カニ振暢シ又佛蘭西ニ於テハ財
計ノ全權ヲ以テ悉ク之ヲ中央政府ニ收握スル
モ白耳義ニ於テハ之ヲ各州ニ分有スルヲ見
ル有ル可シ且ツ佛國財主人過半ハ凡ハ動産信
券ニシテ其收利ニ定數有ルヲ無ク而シテ間接
若クハ直接ニ政府ニ屬セサル者ハ之ヲ信用セ
ズト雖モ白耳義ハ財主人何レハ地方ニ於テモ
皆能ク其資本ノ功用又有多シ此ノ如ク兩國

ノ情況相異ナル所以ニ他無シ蓋シ佛國ハ公債
ヲ募起スル常ニ其節度ニ過キルニ由リ財主人
シテ全ク其注慮ト虞懼トヲ措キテ資本ヲ運用
スル方法ヲ索メズス隨テ怯懦ノ念ヲ生シ所
在ノ地方ニ於テ其資本ヲ殖利ノ事業ニ供スル
ヲ畏難セシムルニ馴致セタルヲ以テナリ
然レモ公債ヲ庇護スル論点ヨリ之ヲ言ハハ公
債証卷及ニ其他ノ動産倍券ヲ發行シテ以テ彼
ノ陋室矮屋ノ細民ヨリ噲聚スル資本タルヲ其
嘗テ土地ノ改良ニ供用スル所ノ貯蓄ヲ竭サシ

ナルニ非ス此ヲ是レ唯往時社會一般ノ慣習ニ
成ル正貨幣ノ貯蓄ヲ割合以テ稍々之ヲ減セ
ルタルニ過キス然レ而シテ此貯蓄貨幣ハ深
ク之ヲ貯藏シテ全ク其運用及ビ増殖合功用ヲ
為サズ行ヒタル者タルニ由リ假令レ其貯蓄ヲ
減セシムルト有ルモ決シテ憂フルニ足ラス凡
ソ公信用ノ最モ確實ニ存立スル邦國即チ英國
ノ如キハ其政府ノ發行スル公債証各ノ價格常
ニ能ク高度ヲ保チ且ツ其價格ニ變易ヲ來タス
ト無キ由リ縱令レ將來遽クニ貨幣同交換ス

ルトヲ要ス其景況中ニ立立所存人ト雖モ亦能
ク其財本ヲ舉テ以テ一時公債証各ヲ收賣ス
ルトヲ得テ復々巨額ノ財本ヲ擁シテ以テ空ク
之ヲ金匣ニ貯藏スルトヲ要セス且ツ鄙野ハ小
民ニ在リテモ其微少ナル貯蓄ノ資本ヲ以テ之
ヲ土地ノ購買ニ供セザルモ亦尚ホ確實ニ之ヲ
運用スルノ容易ナルガ爲メ能ク節儉貯蓄ヲ
尚フノ慣習ヲ成スニ至ルハ復々之ヲ知ラスニ
ハアル可カラズ是レ由リ之ヲ觀ル則チ公債ハ能ク信用ヲ擴

本
改
官

弘シ且リ能ク節儉貯蓄ヲ尚フハ慣習ヲ誘導シ
以テ其慣習ヲ維持セシムルニ足レル者ヲ以テ
ヲ知ル可シ然レモ是此目的ノ為メニ公債ヲ
募起スルハ不可ナル無シト謂フハ意ニ非ス唯
公債ノ常ニ患害多キハ素ヨリ論ヲ待タサルモ
亦其幸福ヲ収メ得可キ好結果ヲ默止ニ付スル
ニ忍ビサル者有レハナリ今公債ノ果シテ利十
ルト果シテ害十ルトヲ明カニセシトテ欲セハ
則チ先ク其公債金額ノ用法如何ヲ問ハサル可
カラズ若シ其金額ヲ以テ全ク無用ノ事業ニ浪

費セシムル於テハ則チ一國社會ノ損害ヲ為シ若
シ之ヲ以テ全ク有用ノ事業ニ供充セシムルニ於テ
ハ則チ一國社會ノ利益ヲ為セル者トス
論者或ハ二三ノ邦國ノ能ク公信用及ヒ私信
用ヲ擴張セシメタルモ而モ其公債ヲ募起セ
ルハ甚ク稀少ナル实例ヲ援引シテ以テ余ガ
論旨ヲ駁難スル者有レシ然レモ余ハ素ヨリ
信用ノ擴張ハ必ス其國公債ノ多少ニ隨フト
信スルニ非ス唯政府若クハ州若クハ都府ノ
公債ハ無名會社ノ信用ノ端緒ヲ啓キ以テ自

カヲ野人及職工ノ如キ小民ヲ誘導シ之ヲ
シテ他ノ動産債券ノ利便ヲ愛重スルニ至ラ
シメタルノ事實ヲ憑証スルニ止マルハ且
夫レ公債証各ノ能ク此功效ヲ奏シタルハ唯
既往ノ事蹟タルニ過キスシテ見今特ニ将来
ニ在リテハ決シテ斯ノ如キ作用ノ見ル可キ
者無カル可シ

余ハ既ニ公債ノ其既往ニ於テ好結果ヲ生出シ
タルニ三ノ事例ヲ舉示シ併セテ其公債ノ金額
ヲ利用スル下之ヲ浪費スル者ノ區別ヲ説述セ

リ今又讀者ヲ其公債ヲ募起スル者ノ不利ナル
所以ヲ知會セシムルニテ其欲スル公債ヲ募起
スルノ頻數ナルハ以テ財主ヲシテ其財本ヲ運
轉スル良方ヲ索メシメス且其起業結社ノ志氣
ヲ衰退セシムルニ至ル可キ事ハ既ニ已ニ論明
シタルハ之ヲ反覆スルハ要セズ更ニ其種々惡
結果有ルヲ指摘ス可シ是レ何ゾ百般ノ事
業ニ供充ス可キ財本ヲ減少シ以テ本國社會ノ
利息ヲ昂加セシムルヲ謂フ内此ノ如キ故
ニ公債ノ結果ハ遂ニ物貨ヲ製産スル經費ヲ増

本
收
官

多量高買然收入及此利益ヲ減縮ニ且此各人若
久々無名會社ノ創興又此公同大工作ヲ妨害ス
ルニ歸着ス此者如ク今年距ルル數年以前我カ
佛國不見ニ此情況ニ陥リタルハ吾人ノ目撃シ
タル所ナリ夫レ一國ノ財本ハ全ク二個人種類
ニ歸スル者ニシテ所謂不動資本及ヒ動資本ヲ
以テ之ヲ結成ス不動資本トハ土地及ヒ製造工
場等ヲ謂ヒ動資本トハ各種ノ天造物農產物工
製物及ヒ貨幣等ヲ謂フ故ニ巨額ノ公債ヲ募起
スルヲ有レハ其結果ハ直チニ動資本ヲ減少シ

若クハ其増殖ヲ遏止セシムルハ蓋シ自然ノ理
勢ナリ嘗テ佛國ニ於テ二十億万「フ」ラシ及ヒ三
十億万「フ」ラシノ大公債ヲ募起セシニ當リ其金
額ハ速ニ之ヲ滿タス「フ」ヲ得タリト雖モ公債証
各人一般ニ流布スルハ久ク歲月ヲ費セリ蓋シ
其公債証各人大半ハ數年ノ間投機商ノ手中ニ
留滞シ而シテ各財主ハ其資本ヲ贏蓄スルニ隨
テ漸次之ヲ零賣シタルニ是レ由レリ此ノ如ク
景況ニ際會シテハ果シテ如何ナル結果ノ現出
スルヲ見ル可キカ一國社會ノ貯蓄スル資本ハ

舉ケテ之ヲ公債証各收買ニ供充シ此他人動
 産債券皆市場ハ賣買ヲ絶シ至ラシム況々
 新ニ或種ノ債券ヲ發行スル如キ焉得テ望ム
 可クシヤ近時會計宰相「マ」氏ハ公布セル統
 計表ニ於テ千八百六十九年ヨリ千八百七十
 三年直レ各年ノ一月ヨリ九月ニ至ルマテ各州
 住民ノ賣買シタル公債証各ノ面数及ヒ資本金
 額ヲ掲出セリ以テ其實況ヲ徴見スルニ足レリ
 今之ヲ左ニ抄示ス

年號	買收証各	賣付証各	買價總額	賣價總額
千八百六十九年	四百二十九萬九千四百二十五枚	二百二十三萬二千六百二枚	一億七百七十三萬六千五百三十三兩	五千二百五十四萬七千五百三十三兩
千八百七十年	四百八十五萬八千二百二十六枚	二百七十七萬八千六百九十八枚	一億二千三百七十六萬一千二百七十九兩	五千五百三十八萬一千八百三十八兩
千八百七十一年	五百二十萬五千七百枚	二十三萬七千四百五枚	九千二百五十二萬二千八百六十六兩	四百二十一萬九千六百六十六兩
千八百七十二	一千七百三十九萬八千五百三十八枚	一百六十三萬七百八十九枚	三億二千三百八十六萬二千九百九十九兩	三千一百零六萬九千二百九十二兩
千八百七十三年	二千四百二十七萬二千九百九十一枚	三百九十九萬二百四十枚	四億三千六百三十五萬兩	三千七百二十八萬九千九百九十九兩

此計表ハ公債ヲ募起スル時際ノ景況ヲ覈查ス
 ル為ニ尤モ緊要ノ者トス者ヨ千八百六十九
 年ハ毫モ公債ヲ募起セリテ無クシテ財海極ノ
 テ平穩モリシニ由リ買價總額ノ賣價總額ニ超

過セルハ五千万ヲラシニ達セサリシモ之ニ及
シテ千八百七十三年ニ於テハ買價總額ノ賣價
總額ニ超過セルヲ四億万ヲラシニ達シタリ是
ニ由リテ之ヲ觀レハ千八百七十一年ヨリ千八
百七十四年ニ至ルマテ各年佛蘭西全國人民ノ
貯蓄セル資本ノ大半ハ擧ケテ之ヲ公債証各ノ
購買ニ供給セシメタリト言フモ亦誣妄ニ非サ
ル可シ又千八百六十九年ヨリ千八百七十三年
ニ至ルマテ各年十月三十日ノ計査ニ係ル公債
証各ト鑄道証券トノ時價表ニ就キテ之ヲ觀ハ

則チ公債証各ヲ除キ他種ノ証券ノ時價低下セ
シトヲ知ルニ足レリ當時公債証各ヲ除クノ外
各種ノ証券ニ税金ヲ賦課シタリシハ洵トニ然
リ然レ氏鑄道証券ノ其價額ヲ減シタル如キク
百分ノ三ナル課税額ノ比例ニ超工而シテ公債
証各ハ依然其價額ヲ保持シ時ニ或ハ騰昂スル
ニ至レリ今斯ニ其計表ヲ抄擧シテ以テ讀者ノ
參照ニ供ス

公債証書
▲△
カシラシ
カシラシ

太
政
官

種類	年號	鑄道証券				
		百三利息	百四半利息	百五利息	旧百六利息	種類
鑄道証券 △△ △△ △△ △△ △△	千八百六十	七十一△ 五十七△ 五	一百〇一△ 一百二十五△			千八百六十
	千八百七十	五十一△ 二十五△				千八百七十
	千八百七十	五十七△ 六十二△ 五	八十四△ 五十一△	九十三△ 二十七△ 五		千八百七十
	千八百七十	五十四△ 七十五△	七十五△ 七十五△	八十四△ 五十一△	四百九十八△	千八百七十
	千八百七十	五十七△ 三百七十五△	八十二△	九十二△ 四十五△	五百〇五△ 六十二△ 五	千八百七十
	千八百七十					千八百七十
種類	年號	千八百六十九年	千八百七十一年	千八百七十三年	千八百七十五年	千八百七十七年
東部鑄道	千八百六十九年	三百三十五△ 五十一△	二百七十七△	二百九十六△ 七十五△	二百七十一△ 八十七△ 半	二百六十九△ 八十七△ 半
巴里昂鑄道	千八百七十一年	三百三十一△	二百八十五△	二百九十八△ 七十五△	二百七十五△ 三十七△ 半	二百六十六△ 五十一△
南部鑄道	千八百七十三年	三百二十七△ 六十二△ 半	二百八十二△ 五十一△	二百九十九△ 七十五△	二百七十三△ 二十五△	二百七十一△ 五十一△

種類	年號	北部鑄道	阿烈安鑄道	西部鑄道
鑄道証券	千八百六十	三百三十九△ 一十二△ 半	三百三十八△	三百二十九△ 五十一△
	千八百七十	三百△	二百八十九△ 三百三十二△ 半	二百九十二△ 五十一△
	千八百七十	三百〇六△ 八十七△ 半	三百〇五△	二百九十六△ 一十二△
	千八百七十	二百八十九△ 八十七△ 半	二百七十七△	二百七十三△
	千八百七十	二百七十九△ 八十七△ 半	二百七十六△	二百七十一△ 六十二△ 五
	千八百七十			

此ノ如ク公債証各ト鑄道証券トノ間ニ低昂ノ
 差ヲ生シタル所以ハ他無シ是レ蓋シ一國人民
 ノ貯蓄セル資本ハ大抵公債ニ供セシメタルニ
 由リテナリ是ヲ以テ新タニ無名會社ヲ創開シ
 及ヒ共同起業會社ヲ設立スル如キハ殆ト得テ
 望ム可カラサルニ至レリ是レ即チ公債ノ甚夕

大
改
官

不利ナル所以ノ確証トス
夫レ一國ニ於テ巨額ノ公債ヲ募起スルヲ有ル
ヤ不動資本即チ土地建造物及ヒ其他不動産ノ
如キ之ヲ未タ公債ヲ募起セサルノ日ニ比スレ
ハ則チ恐クハ其保存ノ稍ヤ周到ナラサル者有
ラニ他ノ一方ニ於テハ動資本ハ為メニ稍マ減
耗シ設令ヒ増殖スルモ決シテ饒多ナリトセハ
然レハ則チ他ニ此動資本ノ減耗及ヒ不動資本
ノ損壞ヲ補償スルヲ得可キ利益ノ存スル有
ルカ此問題ニ對シテハ豫定ノ原則ヲ以テ之ニ

答フ可カラス何トナレハ則チ公債金額ヲ供用
スル方法ノ何如ニ関スル者タルヲ以テナリ
然リト雖モ動資本ノ減耗スルヤ其數額ノ募集
公債金ノ數額ニ均準スル者ト誤認スルヲ無カ
ル可シ其減耗額ノ常ニ公債ニ下タル所以ハ蓋
シ數種ノ原因有リテ然ルナリ此原因ノ二種ハ
余既ニ之ヲ説示セリ即チ其第一種ハ巨額ノ公
債ヲ募起スルヲ有レハ則チ常ニ節儉貯蓄ノ風
習ヲ鼓舞スルニ存シ其第二種ハ巨額ノ公債ヲ
募起スルヲ有レハ則チ常ニ一國ノ人民ヲシテ

其金匣ヲ罄竭シ以テ能ク貨幣ノ功用ヲ社會ニ
流暢セシムルニ存ス第三種ノ原因ハ即チ外國
人ノ其資本ヲ投シテ以テ我カ公債ニ加入スル
ニ存スルナリ此一点ニ関シテハ精密ノ檢覈ヲ
加フルヲ要スルガ故ニ余ハ仔細ニ之ヲ論究
シテ以テ世人ノ注意ヲ喚起セントス

余ハ先ツゴシヨルセ^レ氏ノ説ヲ舉示セシニ其
説ニ謂ヘラク外國人ヲシテ我カ公債ニ加入セ
シムル如キハ憾ム可キノ事ニ屬ス何トナレハ
則チ其公債ノ利息ニ充ル金額ハ之ヲ外國ニ輸

送シ而シテ外國ニ於テ之ヲ消用セシムルヲ以
テナリト余ノ意見ハ全ク之ニ反ス余ハ嘗ニ外
國人ノ我カ公債ニ加入スルヲ不利ト為サ
ルノミナラス其尤モ多數ニ及ハシト冀望ス
我カ公債証券ノ利息ニ充ツ可キ金額ヲ外國ニ
輸送スルハ詢トニコシヨルセ^レ氏ノ説ノ如シ
ト雖モ亦自カラ外國財本ノ内國ニ移入スル有
ルヲ知ラスニハアル可カラス此財本タルヤ
旧時ノ公債ニ於テ往々鑿見スル事蹟ノ如ク之
ヲ濫費浪用スルヲ得サルニハ非ス然レモ

大
改
官

令レ此財本ヲ内國ニ募集セルモ之ヲ濫費浪用
スルニ至リテハ則チ一ナリ加之ノミナラス若
シ内國ニ募集セハ必ス幾分カ物品産出ノ資本
ヲ缺乏セシムルニ至ル可シ然ルニ若シ資本ヲ
外國ヨリ移入セシムルト有ハ則チ此缺乏ヲ未
スノ憂無クシテ唯其資本ノ収益ヲ減セシムル
ニ止マルノミ故ニ若シ一國ノ公債ヲ募起ス可
キ場合ニ當リ非常ノ重利ヲ交付スルニ非サル
ヨリハ決シテ外國ノ財本ヲ内國ニ移入セシム
ルノ不利有ルトヲ見サルナリ之ヲ要フルニ富

饒殷盛ノ一國ニシテ永遠ニ其公債証券ヲ外國
ニ留存セシムルト無キハ之ヲ古今ニ徴シテ明
カナリトス
凡リ借主タル邦國ハ之ヲ二種ニ區別ス其第一
種ハ確實ノ保証ヲ與フル者ナリ即チ其政府ノ
組織善ク秩序ヲ得テ其財計ノ方法善ク新法ニ
適シ而シテ其人民ノ善ク職業ニ勵精スルヲ謂
フ其第二種ハ之ニ信用ヲ置ク可カラサル者ナ
リ即チ其政府專裁ニシテ其財計宜キヲ得ス而
シテ其施政ノ規矩悉ク紊亂スルヲ謂フ第一種

ノ邦國ハ内國人民ノ信用ヲ得ルヤ之ヲ外國人
民ニ得ルニ比スレハ最モ多シトス第二種ノ邦
國ハ毫モ内國人民ノ信用ヲ得ルヲ能ハスシテ
却テ之ヲ外國人民ニ得ルヲ有リ蓋シ君主若ク
ハ宰相ノ識乏ク慮浅ク而シテ危險ヲ顧ミサル
モノニシテ其公債ヲ募起スルニ當リ非常ノ重
利ヲ以テ香餌ヲ財主ニ投スレハナリ彼ノ埃及
土耳其秘露及ヒ知尼等ノ諸國ノ如キ是ナリ此
等ノ邦國ハ帝ニ財本ノ甚夕寡薄ナルノミナラ
ズ内國ノ財主ハ信用ヲ政府ニ置カサルニ由リ

外國ニ向テ財本ヲ資借スルニ非サレハ則チ他
ノ方法ノ以テ能ク之ヲ得可キ者有ラサルヲ以
テナリ千八百七十三年土耳其政府ノ公債ヲ募
起スルニ當リ公士坦丁府ハ頗ル豪商富家ノ多
キ都府ニシテ其應募者ハ殆ト無キガ如シ是レ
彼ノ和蘭國民及ヒ英吉利國民等ノ常ニ此等ノ
邦國ニ向テ其資本ヲ貸付シ以テ巨利ヲ攫取ス
ル所以ナリ
之ニ及ビテ第一種ノ邦國ノ如キハ其公債証各
ノ能ク内國ノ信用ヲ得ルヤ愛カニ外國ニ得ル

ニ超ユル者有り故ニ負債ヲ償還スルニ耐フ可
キ資カヲ有スル政府ノ公債ニシテ概子内國ニ
於テ其募借ノ全額ヲ満スルヲ得サル者ハ殆ト
稀ナリ假令ヒ其公債証各ヲ発行スルノ初時ニ
在リテハ一旦之ヲ外國人ノ手中ニ付スルモ數
年ヲ經ヌシテ必ス内國ニ還到セサル者有ル
無シ蓋シ此現象タル實ニ自然ノ情勢ニ發出ス
夫レ自然ノ秩序ニ依據シテ以テ組織セル政府
ノ信用ハ直接ニ其國法ニ統治セラレ人民ノ
之ヲ尊重スルヤ他ノ隔絶セル邦國人民ノ之ヲ

尊重スルヨリモ深且厚シト是レ富強ナル邦
國ノ公債証各ハ内國人民ノ之ヲ信スルヤ遙カ
ニ外國人民ノ之信スルニ勝レル所以ナリ之ヲ
例セハ我カ佛國ノ數々戦争ニ敗衄シ連リニ變
革ニ遭遇スルニ拘ハラス國民ハ皆能ク我カ政
府ノ負債ヲ償還スルニ耐フ可キ資カヲ有スル
ヲ明悉スルモ外國財主ノ我カ政府ニ信用ヲ
置クハ我カ他國財主ノ深厚ナルニ及ハサル如
キ是ナリ抑モ一國ノ危難ハ外國人ノ危難ハ外
國人ノ之ヲ規ル常ニ事實ニ過キルヲ有ルモ内

國人ノ如キハ必ス能ク其実情ヲ洞見ス即チ佛
蘭西変革ノ危難及ヒ伊多利分裂ノ危難ヲ以テ
之ヲ微ス可シ或ハ此ノ常情ニ反對スルノ景況
無キニ非スレテ項年佛蘭西ニ於テ二次ノ大公
債ヲ募起シタル場合ニ當リテハ開明諸國ノ市
會ヲ聳動セシメ外國人ノ我カ公債ニ加入スル
者頗ル多数ナリシト雖モ是レ唯一時公債証書
ヲ其手中ニ有セシメタルニ過キスレテ未タ幾
クナラス漸次ニ我カ國民ノ手中ニ收回スルニ
至レリ今ヲ距ルヲ八九十年以前伊多利ニ於テ

發行シタル公債証書ノ其金額ノ三分五ニハ外
國人就中佛蘭西人ノ手中ニ落テ而シテ本来伊
多利公債証書ノ所有者ヨリ之ヲ言ヘハ其利息
ヲ外國ニ於テ交付セシムルノ利益タルハ拘ハ
ラズ漸次之ヲ伊多利ニ收回シ今日ニ在リテハ
唯其証書ノ金額四分ノ一若クハ五分ノ一ナル
証書ノ利息ヲ外國ニ於テ交付スルニ過キス又
佛蘭西ニ於テ募起シタル三十億フランニ公
債証書ノ大半ハ其初メ外國ニ出テタリシニ其
后内國人民ノ資本ヲ貯蓄スルト我カ公債証書

價格ヲ昂騰スルトニ隨テ漸次ニ之ヲ内國人
民ノ手中ニ收田スルヲ見ルナリ
千八百七十八年九月米合衆國大統領「ト」氏
ガ「マイ子ツタ」州ニ於テ為セル演説ニモ亦自
ラ上文ノ現象ヲ指示セシ「有リ其言ニ曰ク千
八百七十一年ニ於テ外國ニ散布セル合衆國公
債証各ノ惣額ハ一億六千萬乃至二億万リ「ウ
ル」ステルソングニシテ此公債ノ為メニ毎年歐
羅巴州ノ各國ニ支辨スル利息額ハ一千万乃至
一千二百萬リ「ウ」タルステルソングニ達セリ千

八百七十八年ニ於テハ合衆國公債証各ノ惣額
六分ノ五ハ全ク内國ニ收田シ而シテ唯其六分
ノ一ノミ猶ホ見ニ外國ニ散布ス嘗テ此公債ノ
利息ノ為メニ一千万リ「ウ」ルステルソングノ
金額ヲ外國ニ交付シタリシモ今日ニ在リテハ
毎年總カニ二百四十萬乃至三百萬リ「ウ」ル
テルソングヲ支辨スルニ止マルノミト是ニ歸
リテ之ヲ觀レハ合衆國ノ人民ハ嘗テ外國ニ散
布セシ公債証各ノ大半ヲ買田セシ「知ル可
シ龍動府ノ經濟新誌ニ據レハ英國人ガ合衆國

故

ノ或ハ公債ノ利息ヲ交付スルニ金貨ヲ以テセ
スシテ銀貨ヲ以テスル有ラシトテ恐レ其公債
証各ヲ貯存スル下ヲ欲セサルニ至リシトテ証
言セリト雖モ此説タル未タ以テ米合衆國公債
証各ノ所有主ヲ更ヘシメタル所以ノ事情ヲ悉
クスニ足ラス凡リ其國ノ益ニ富實繁盛ニ赴ク
ヤ必ス外國ニ散布スル公債証各ヲ買回スルニ
至ルハ是レ普通ノ現象ナリ
千八百七十五年以來、公債証各ノ價位甚ク低下
八百七十九年之ヲ金銀兩貨ヲ以テ本位ト爲セタル邦國

ノ法律ヲ以テ定メタル價位ニ比較スレハ則
チ百分ノ十六乃至十七ヲ低下セシムルニ至
レリ又千八百七十七年、米利堅國ニ於テ一個
ノ法律即チ世人ノ白法ト喚ビ做セル者ヲ制
定頒布セリ此法律ニ於テハ復タニ銀貨ヲシ
テ何等ノ辨償ニ向テモ供用ス可キ功カヲ有
セシメタリト雖モ此法律ハ今日ニ至ルマテ
全ク徒設ニ歸セリ是レ世人ノ之ニ白法ノ渾
名ヲ與ヘタル所以トス
夫レ一ノ大國ニシテ多年其公債証各ヲ隣國ニ

留存セシムルハ決シテ望ム可カラサルモ其發行ノ時際及ヒ發行以後ノ数月間ハ隣國ノ大財主ヲシテ我カ要急ノ支用ニ充ツ可キ巨額ノ資本ヲ一時我ニ供出セシムルノ事實無キニ非ス余今此成果ノ然ル所以ヲ論明セシニ凡リ政府ガ其起債權ヲ銀行ニ委シテ公債ヲ募集セシムルト自カラ之ヲ募集スルトヲ問ハス其大額ハ必ス自國大銀行ノ兜收スル所ト爲リ而シテ其大銀行ハ恰モ僧行若クハ束賣商ト一般ニ中財主及ヒ小財主ノ需求ニ應シテ漸次ニ其握有ス

ル多數ノ公債証券ヲ零賣ス且夫レ大銀行ハ今時歐洲普通信用ノ樹立ニ基キテ各國ニ向テ糾通者^{ミテイニシ}應通者^{ユレスボシクシ}及ヒ支店ヲ設置シ而シテ此等ハ皆親屬ノ繫因ニ係リ或ハ商業ノ連絡ヲ持シテ以テ常ニ相ヒ資援スルカ故ニ其名ハ巴黎府ニ於テ公債証券ヲ收買スト言フモ其實ハ龍動普郎克堡亞模丁坦不爾塞耳維納等ノ各都府ニ就テ其資本ヲ募集スル者ト謂フ可シ今斯ニ千八百七十四年ノ豫算報告各ノ一段ヲ抄出シテ以テ三十億万^フラ^レノ公債募起ノ節目ヲ明示セシ

太
女
宮

此豫算報告依ルニ三十億万フランノ公債
ハ其実額三十四億九千八百七十四万四千六百
九十九フランヲ募集セリ是レ即チ二億零七百
零二万六千零三十一フランノ利息ト四十零億
一千四百五十二万六千二百フランノ表額トニ
諛当スル者タリ夫レ此公債ヲ募起スルニ方リ
テヤ全國人心ノ之ニ趨向シ而シテ高估ノ機ニ
投シ利ヲ攫スルニ汲々タル情勢ハ古今未タ嘗
テ聞見セサル所ナリ其應募者ノ總數九十三万
四千二百七十六人ノ計内十萬七千六百十二人

ハ外國人ニ係レリ故ニ外國應募者ノ内國應募
者ニ對スル比例ハ僅カニ八分ノ一ニ超過セス
ト雖モ其供出セル金額ノ比例ハ却テ内國人ノ
供出セル金額ニ超過シタリ今内國人ノ供出セ
ル金額ヲ算スルニ巴黎一府内ノ應募額ハ一百
三十二億五千二百四十五万五千九百三十三
フランニシテ各州ノ應募額ハ四十五億一千三百四
十四万五千五百六十六フランナリ之ヲ合算ス
レハ則チ一百七十七億六千六百万フランニ餘ニ
達シ而シテ各外國ノ應募額ハ二百六十零億五

千零十九万五千零五十四「ラ」ノ巨額ニ上レ
リ今若シ外表ノ觀察ヲ下タセハ則チ外國應募
額ノ這樣ニ巨多ナルモ其実ハ内國人カ外國ニ
於テ供出セル者其多キニ居レリ是レ蓋シ外國
人ノ應募法ハ甚タ簡易ニシテ且ツ便益頗ル多
キニ由リテナリ外國應募金額ノ此ノ如ク其レ
多キモ外國應募者ノ負數ノ唯十萬七千人ナル
ヲ以テ之ヲ觀レハ外國高估ノ我カ佛國ノ公債
ニ應スル者ノ甚タ少數ナルヲ知ル可シ夫レ
歐羅巴各國ノ大財主カ此時際ニ於テ佛國政府

及ヒ佛國ノ各財主ニ著大ノ資カヲ假セシ「ハ」
疑ヲ容レス然レニ是レ多クハ巴黎府ニ糾通者
若クハ應通者ヲ有スルガ爲メ之ニ應セシ者
ニシテ決シテ永久ニ佛國ノ公債証各ヲ貯有ス
ル「ハ」欲シタルニ非ス今假リニ高語ヲ以テ之
ヲ言ヘハ則チ唯僧行ノ事業ヲ執リシニ過キス
之ヲ要スルニ佛國ノ爲メニハ一時甚タ有益ノ
資助ヲ爲シ佛國ノ財主ヲシテ漸次ニ動資本ヲ
貯集シ以テ能ク巨額ノ公債証各ヲ收買スル「ハ」
ヲ得セシムルニ至レリ

此公債ニ應シタル各外國ノ景況ヲ概査スル
 ニ是レ投機ト一時息貸ノ目的トニ出テサリ
 シトヲ知會スルニ足レリ外國人ノ應募額ニ
 百六十億万フランノ利息ハ十五億四千百四
 十三万千六百六十フランニシテ試ミニ之ヲ
 各外國ニ派当スレハ獨逸ハ四億七千百十五
 万四千八百十五フラン自耳義ハ三億九千六
 百零四千三百二十フラン英吉利ハ三億三千
 四百十五万千二百十五フランアルザス、ロ
 レ、シ、ス、州ハ八千七百七十三万五千零十五フ

ラシ和蘭ハ八千二百九十八万六千八百六十
 五フラン丁抹ハ三千四百四十万二千三百九
 十フラン土耳兒ハ三千二百九十一万七千七
 百九十フラン瑞西ハ三千二百四十八万千二
 百八十五フラン伊多利ハ三十一百零七万八
 千九十九フラン澳地利ハ三千零三十七万零四
 百十フラン羅馬ハ五百七十九万二千七百六
 十五フラン亞細亞州内ハ二百三十一万四千
 六百七十九フラントス獨逸、自耳義、英吉利、三旨
 ノ其加入額ノ巨多ナルハ專ラ投機ノ商略ニ

出ツル者タリ蓋シ佛蘭西ノ大銀行ト獨逸白
耳義英吉利三國ノ大銀行トハ其聯絡甚タ親
密ニシテ殆ト一家ノ如ク其レ然レルハ衆人
ノ普ク知ル所ナリ夫レ富饒殷盛ノ邦國ニシテ
多年其公債証券ヲ外國ニ留存セシムルヲ得
サルハ余ガ既ニ論明セシ所ナリ是レ蓋シ外國
人ノ其政府ヲ信用スルハ内國人ノ之ヲ信用
スルノ深厚ナルニ如カサルヲ以テナリ然レ
モ亦余ガ前ニ説述シタル如ク公債ヲ募起ス
ルニ當リ數月間若クハ數

年間ハ外國人ガ起債ノ政府ヲ資助スル有リテ
其政府ニ必ス要スル動資本ヲ其國內ニ減少セ
サラシムルヲ得ルハ讀者ノ宜ク注意スヘキ
所トス又外國人ガ間接ニ起債ノ政府ヲ資助
スルヲ有リ而シテ其資助ヲ與フル者モ其資
助ヲ受ル者モ共ニ之ヲ覺知スルヲ無キハ豈ニ
復タ異事ナラスヤ抑モ何等ノ者ヲ指スカ
即チ今時ニ行ハルハ歐洲通用債券及ヒ
歐洲普通信用ノ結果ニ係ル者タリ蓋シ
歐羅巴各國ノ重要ナル商人會

場ニ於テ常ニ時價ヲ定ムル或種ノ動産債券有
リ商人會場ノ通語ニ之ヲ稱シテ歐洲通用債券
ト云フ此種類ノ動産債券ハ即チ各國政府ノ公
債証券各國無名會社ノ株券及ヒ其証券ニシテ
歐羅巴各國ノ重要ナル商人會場ニ於テ常ニ之
ヲ授受ス見今此種類ノ動産債券中其最モ多數
ナル者ヲ舉示セハ公債証券ニ在リテハ伊多利
ノ百五公債証券各澳地利匈牙利ノ公債証券各土耳
其人ノ公債証券各埃及ノ公債証券各米合衆國ノ公債
証券各及ヒ西班牙ノ公債証券各ト為ス無名會社ノ

主要ナル株券及ヒ証券ニシテ歐洲通用債券ノ
名稱ヲ得タル者ハ澳地利ノ鐵道株券倫波再斯
ノ鐵道株券及ヒ伊多利ノ鐵道株券ト為ス此等
ノ動産債券ニ向テ歐洲通用債券ノ性質ヲ帶ハ
シメタルハ抑モ何等ノ故ニ由ルカ是レ專ラ其
債券ヲ發行シタル原因ニ係ル者タリ今試ニ
一事例ヲ舉ケテ之ヲ言ハハ伊多利公債証券ノ
如キ即チ伊多利統一ノ日ニ於テ發行シタル者
ナリシニ元來伊多利國內ニ於テハ其起債ノ全
額若クハ其大半ヲ滿シ得ルノ財主有ルヲ無ク

大
政
官
女
宮

而シテ佛蘭西、英吉利、和蘭、白耳義及ヒ獨逸北部ノ諸國人民ハ大抵伊多利ノ利害ニ關係ヲ有シ且ツ伊多利ノ將來ニ於テ富饒殷盛ニ進ム可キトヲ倍スルニ由リ其公債額ノ大半ハ概テ外國人ノ供出スル所ニ係レリ是故ニ伊多利ノ公債証各ハ歐羅巴各國ノ大都府即チ亞模丁、坦龍、勃普朗克堡、不爾塞耳、巴黎、羅馬等ニ流布シ其商人會場ニ於テ價格ヲ評定シ以テ相ヒ授受スル者トヌ土耳其ノ公債証各モ亦然リ自國ニ於テハ之ヲ賣買授受スルト無クシテ却テ外國ノ商人

會場ニ於テ其價格ヲ評定ス又澳地利若クハ倫波再斯等ノ鐵道株券ノ如キハ各國ノ商人會場ニ於テ勢カヲ有スルト此等ノ公債証各ニ齊シ即チ見ニ倫波再斯鐵道ノ如キ其名義ハ南澳地利倫波再斯鐵道會社ノ管有ニ係ルト雖モ亦伊多利、澳地利兩國ノ共有スル所ノ者トス倫波再斯鐵道及ヒ澳地利鐵道佛蘭西ニ於テハ普漏士ニ於テハ之ヲ佛澳大抵佛國ノ財主ノ資本ヲ以テ敷築セル所ノ者ニ係レリ此ノ如ク數國ノ財主共ニ此ニ線ノ鐵道ニ關係ヲ有スルニ由リ歐

太
女
宮

羅巴各國ノ商人會場ニ於テ其鑄道株券ノ價格ヲ評定スルニ至ル是レ其歐洲通用債券ノ性質ヲ有ナル所以ナリ
此種類ノ動産債券ハ常ニ必シモ他ノ債券ニ優レル利益ヲ收有セシムルニ非スレテ時ニ或ハ其利益ノ彼レニ下タルヲ有リト雖モ常ニ商業ノ正鵠ト為ル者タリ我カ佛國ノ北部鑄道及ヒ巴黎里昂墨的丁刺捏鑄道ハ之ヲ澳地利鑄道及ヒ倫波再斯鑄道ニ比スレハ其收利最モ多シト雖モ然レモ倫波再斯鑄道株券及ヒ澳地利鑄道

株券ハ巴黎不再塞耳亞模丁坦普朗克堡柏林及ヒ維納等ノ商人會場ニ於テ尤モ容易ニ賣買スルヲ得可クシテ巴黎里昂墨的丁刺捏ノ鑄道株券及ヒ北部鑄道株券ハ多少ノ折損ヲ受クルヲ無クシテ能ク之ヲ外國ノ商人會場ニ賣買スルヲ得ルハ蓋シ甚タ難キヲ見ルナリ
歐洲通用債券ハ歐洲普通信用ノ媒助ヲ為スヤ其効用固ヨリ鮮ナカラサルニ由リ公債ヲ募起スルニ當リテ之ニ資助ヲ假スル亦甚タ大ナリ今其然ル所以ヲ証言セシニ抑モ歐洲通用債券

ハ財主若クハ銀行ノ為メニ滙兌証票ノ功用ヲ
為ス者タリ之ヲ詳言スレハ佛國ノ一銀行ガ獨
逸國內ニ金銀ヲ遞交スルニ當リ巴黎ノ商人會
場ニ於テ伊多利ノ百五公債証各若クハ土耳其
ノ公債証各若クハ澳地利ノ鑄道株券若クハ倫
波再期ノ鑄道株券ヲ購買シテ之ヲ伯林若クハ
普朗克堡ノ商人會場ニ販賣シ見實ニ金銀貨幣
ヲ遞送スルヲ無クシテ以テ支償ヲ辨スルノ謂
ヒナリ嘗テ我々佛蘭西政府ガ償金ヲ普漏士政
府ニ支辨セルヤ其大半額ハ此方法ニ依リテ之

ヲ交付シ金銀貨幣ヲ遞送スルヲ要セサリキ
又歐洲通用債券ハ實ニ容易ニ巨額ノ公債ヲ募
集スルヲ得セルノ功用ヲ有ス抑モ歐洲
西部ノ各國ニ於テハ歐洲通用債券ヲ愛重スル
ノ人甚多ク且ツ是レ容易ニ遠地ニ遞送スルヲ
得可キ者タルニ由リ其商人會場ニ於テ債券
交換ノ事業ヲ做スハ常ニ見ル所ニシテ時ニ或
ハ其事業ノ殊ニ頻繁ナルヲ有リ所謂ル債券交
換ノ事業ハ一種ノ債券ヲ賣致シテ他ノ一種ノ
債券ヲ買收スルニ在ルナリ人若シ此解説ヲ觀

大
政
官
太
女
宮

ハ則チ歐洲通用債券ノ能ク公債ノ募集ヲ容易
ナラシメ特ニ我カ佛國ノ二十億万「フラン」及ヒ
三十億万「フラン」ハ大公債ヲ募起セルニ當リテ
實ニ大影響ヲ與ヘタル「」ヲ領會スル有ル可シ
歐洲通用債券ノ其物タルヤ闡明各國ノ商人會
場ニ於テ之ガ價格ヲ評定シ而シテ之ヲ需求ス
ル者亦實ニ多シ是レ余カ上文ニ闡示セル債券
交換ノ頻繁ナル景況ヲ來タセル第一ノ原因ナ
リ又一國ノ政府ガ巨額ノ公債ヲ募起スルニ當
リテ債券ノ交換ヲ非常ニ頻繁ナラシムル時會

ノ原因有リ請嘗ヒ之ヲ説カシ夫レ一朝巨額ノ
公債ヲ募起スル公告ヲ發スルヤ其結果ハ必ス
其國ノ商人會場ニ於テ評定スル各種債券ノ價
格ヲ低下スルニ至ルハ疑ナシ此場合ニ於テハ
歐洲通用債券モ亦他種ノ債券ト均ク其價格ノ
低下スル「」ヲ免レスト雖モ此國ト景況ヲ同シ
クセサル他國ノ商人會場ニ於テハ依然其價格
ヲ保存シ散テ低下ノ市情ニ影響セラレ「」無
キニ由リ外國ノ投機高ハ此起債國ノ商人會場
ニ蜚集シ來リテ適ニ價格ノ低下セル歐洲通用

債券ヲ多量ニ收買ス可シ今能ク此情況ヲ明カ
ニスル為メニ一事例ヲ擧ケテ以テ之ヲ示サシ
嘗テ我カ佛國ノ大否運ニ沈ミ財計甚ク艱難ナ
ルニ際シテ五十億フランノ公債ヲ全國ニ募集
セシニ其結果タルヤ巴黎ノ商人會場ニ於テ評
價スル各種ノ債券ヲシテ其價格ヲ低下セシメ
特ニ伊多利ノ百五公債証各及ヒ澳地利倫波再
期ノ錫道株券ノ價格ハ最モ低下ヲ加フルニ至
ラシメタリ此ノ如ク歐洲通用債券ノ我カ佛國
ノ商人會場ニ於テ其價格ヲ低下スルハ是レ其

債券ニ由來スルニ非スシテ偏ニ我カ市會ノ景
況ニ原由スル者ナリ其實ヲ論セハ當ニ其信用
ヲ薄クスルヲ無キノミナラス恐クハ一層ニ之
ヲ増スル有ラシ何トナレハ則チ大戰大乱ノ後
ハ必ス昌平無事ヲ多年ニ期ス可キヲ以テナリ
省ヨ當時歐洲通用債券ノ毫モ其利息ヲ減スル
ニ非ス又毫モ其收益ヲ減スルニ非サルヲ然レ
ハ則チ其價格ノ低下スル原因ハ其功用ニ関ス
ルニ非スシテ偏ニ佛蘭西一國ノ財計ニ関スル
影響ヲ巴黎ノ市會ニ受ケタルヤ知ル可キノ三

復タ何リ外國人ノ需求ヲ減ス可ケンヤ適ニ以テ却テ之ヲ増スニ足ル可キハ蓋シ疑ヲ容レズ彼ノ獨逸、澳地利、伊多利及ヒ和蘭ノ商民ハ常ニ歐洲通用債券ヲ收買スルノ慣習有ルニ由リ若シ一朝佛國ノ市會ニ於テ其價格ガ自國ノ市會ノ價格ヨリモ低下セハ則チ我ノ市會ニ蜚集シテ多量ノ債券ヲ收買シ而シテ我カ佛蘭西國人ノ公債ニ加入スル資本ヲ供給ス是レ即チ一國ニ於テ大公債ヲ募起スルヲ有レハ常ニ若干ノ歐洲通用債券ヲ外國ニ流出シ而シテ其數額ニ

對当スル資本ヲ外國ヨリ移入セシムル所以ナリ抑モ此ノ如キ景況ハ凡百ノ物貨ニ関シテモ亦自カラ現出スル者タリ譬ヘハ佛國カ其財本ノ甚タ窮乏ナルニ會ヒ人民皆常食ノ物料ヲ供具スル資金ヲ支フルト能ハサレハ則チ麥價ハ必ス低下ス可シ然レモ此低下ノ原因ハ偏ニ佛蘭西一國ノニ関スルヲ以テ外國人ハ必ス我カ市會ニ於テ多量ノ麥ヲ收買シ我ノ市會ノ麥價ガ他人各國市會ノ麥價ト平準スルヲ得ルニ

追ヒテ始メテ正ムノ三是レ歐洲通用債券ノ時
價ニ見ル所ト恰モ其景況ヲ同シクスル者ニ非
スヤ
千八百七十年以來我レ佛國ノ財計ニ関シテ見
ル所ノ現象ハ經濟學家ノ未タ嘗テ闡發セサリ
シ所ノ一問題ヲ世上ニ昭著ナラシムルニ至レ
リ
千八百七十五年會計宰相レオシセ山氏ノ報告
即チ償金ノ支辨及ヒ滙兌ノ事業ニ関スル報告
ニ於テ緊要ノ説明有ルヲ見ル乃チ曰ク五十億

万「フ」ラ「シ」ノ巨額ナル償金ヲ普漏士政府ニ交付
スルノ容易ナル殆ト思議ス可カラサル如ク
其レ然リシハ專ラ歐洲通用債券ノ交換ニ是レ
頼レリト實ニ五十億万「フ」ラ「シ」ノ償金ハ見ニ之
ヲ佛國ヨリ普國ニ遞送セシニハ非スレテ唯佛
國人民ノ外國ニ息貸セル償金ヲ以テ直チニ之
ヲ普漏士政府ニ移付シタルニ過キスト言フモ
亦タ不可ナル「フ」無シ我レ佛國ガ此ノ如キ巨額
ノ償金ヲ外國ニ交付シテ而モ能ク財計ヲ紊乱
スルニ至ラサキ「シ」所以ハ蓋シ債券交換ノ一事

ニ歸セサル下無シ
レオシセシ氏ハ巴黎ノ商人會場管理負ノ報告
ニ據リテ千八百七十一年七月一日ヨリ千八百
七十三年十二月三十一日マテ巴黎ノ商人會場
ニ於テ授受シタル歐洲通用債券ノ數額ヲ抄録
レ以テ之ヲ公告セリ此抄録ハ唯其概數ヲ推算
シタルニ過キサレハ未タ以テ確實ノ算勘ト為
スニ足ラス今其然ル所以ヲ説カシニ此年度間
ニ於テ新買主ニ授付シタル外國債券ノ大半ハ
必ス外國ニ流出セシヤ疑ヒ無カル可シ何トナ

レハ則チ佛國ノ財主ハ其資本ヲ擧ケテ内國公
債ノ募借ニ供充シ復タ外國債券ヲ投資スルニ
暇マ無カリトヨ以テナリ然リト雖モ此報告計
表ニハ帝ニ見實賣買ニ係レル債券ノ數額ヲ算
セルノミナラス空賣ニ係レル債券ノ數額ヲモ
算入セリ然リ而シテ空賣ハ決算ノ限期ニ至リ
テ復タ之ヲ續行スルニ由リ決算ノ度數ニ隨テ
自カラ其賣買ノ度數ヲ増加スル下ヲ免レズ
是レ此報告計表ノ確實ナラサル第一ノ原因ニ
シテ即チ千七百七十一年ヨリ千七百七十三年

ニ至ルマテ外國債券ノ佛國ヨリ外國ニ流出
タル精密ノ數額ヲ此計表ニ據証ス可カ
所以ナリ又此計表ヲ以テ確實ナリト爲
ラサル第二ノ原因有リ是レ第一ノ原因ト
ク反對ノ点ニ存ス即チ商人會場管理
ノ間介ヲ經スレテ賣買タル外國債券
數額計入セサル者ヲ謂フ之ヲ詳言ス
レ公商人會場管理負ノ臨監セサル者
ヲ漏脱セシ者ト又然レ私會場ニ於テ
賣買授受シタル者ヲ漏脱セシ者ト
又然レ私會場ニ於テ賣買授受シタル
者ヲ漏脱セシ者ト又然レ私會場ニ於テ
賣買授受シタル者ヲ漏脱セシ者ト

公會場ニ於テ賣買スル債券ノ數額ニ
過多スルヲ往々ニ之有ルヲ察セサル可
カラス且夫レ米利堅ノ公債証各及
ヒ其他ニ三種ノ外國債券ハ皆我
モ亦此計表ニ脱漏セリ此等ノ外國
債券ハ皆我カ佛國ノ市會ニ於テ頗
ル勢カヲ有スル者タリ讀者ハ既ニ
此計表ノ確實ナラサル所以ヲ瞭解
シタル可キニ由リ今左ニ此計表ヲ
載セテ以テ當時外國債券ヲ賣買
セシ景況ノ概略ヲ知ラシメントス

第一 千八百七十一年ヨリ千八百七十三年

ニ至ルマテ外國公債証各賣買ノ決算表	伊國百五	四十六百一十一万五千フラン
伊國百五	伊國烟草稅 抵當 百六	五万六千二百五十フラン
秘露國百六		一十八万四千五百フラン
土國百五		五十二万フラン
土國百六		一萬五千七百五十フラン
西國百三		六百フラン
知尼國百五		八万四千三百七十五フラン
通計		四千六百九十七万六千四百七十五フラン

此決算額ハ以テ當時商人會場ノ時價ニ於テ大

約六億六千九百万フランノ資本總額ヲ供出セシ者タルヲ知ル可シ

第二	千八百七十一年七月一日ヨリ千八百七十二年十二月三十一日ニ至ルマテ外國債券ノ賣買決算表	
土國銀行株券		八万零六百五十枚
澳國地會社証券		一十九万三千五百二十枚
澳國鑄道株券		六十四万五千八百二十五枚
倫國鑄道株券		三十七万零一百五十枚
澳國東北鑄道株券		六万七千三百五十枚

匈國鑄道株券

一万二千七百枚

此ノ決算額ハ以テ當時商人會場ノ時價ニ於テ
 大約七億二千二百萬フランノ資本總額ヲ供出
 セシ者タルヲ知ル可シ
 以上ニ列示セルニ個ノ計表ハ唯當時債券賣買
 ノ實況ヲ推測スルヲ得セシムルノ効用ヲ見
 ハスニ過キス今別ニ詳明ニシテ且ツ緊要ナル
 計表ヲ舉示セシ是レ千八百七十年ヨリ千八百
 七十一年ニ渉レル大戦争ノ前後ニ伊多利公債
 証各及ヒ土耳其公債証各ノ利息ヲ巴黎府ニ於

テ支辨シタル實數ヲ掲載スル者タリ

伊多利公債証各ノ利息額

千八百六十八年上半期	四千三百零二万一千フラン
千八百六十八年下半期	四千二百零二万五千フラン
千八百六十九年上半期	四千三百二十三万フラン
千八百六十九年下半期	四千零八十万フラン
千八百七十年上半期	三千八百二十四万フラン
千八百七十年下半期	三千六百零四万フラン
千八百七十一年上半期	一千六百七十二万フラン
千八百七十年下半期	四千零一十五万フラン

千八百七十三年上半年 二千九百八十七万
 千八百七十二年下半年 三千零三十九万三千
 千八百七十三年上半年 三千二百四十五万八千
 千八百七十三年下半年 二千九百八十五万六千
 千八百七十四年上半年 二千五百六十万四千
 此計表ハ以テ歐洲普通信用ノ活動カノ妙用ヲ
 徴見スルニ足ル者ニシテ若シ詭者ノ少ク其意
 ヲ注カハ則チ能ク余ガ上文ニ説示セルニ現象
 ノ自カラ表顯スルヲ領會ス可シ今詭者ノ記
 臆ヲ喚起スル為メニ反覆シテ之ヲ言ハシニ其

一ハ政體ハ組織善ク秩序ヲ得テ財計ノ方法善
 ク新法ニ適シ而シテ其人民ノ善ク職業ニ励精
 スル邦國ニ在リテハ其公債証各ノ内國人民ニ
 信用ヲ得ルマ之ヲ外國人民ニ得ルニ勝レル者
 是ナリ又其一ハ強盛殷富ノ邦國ニ在リテハ必
 ス外國ニ散布セル自國ノ公債証各ヲ收回スル
 ニ至ル者是ナリ是レ我カ國難ノ起祭セル以前
 ニ於テモ尚ホ伊多利ヨリ佛蘭西ニ支辨シタル
 公債利息ノ年々漸次ニ減少セシ所以ナリ蓋シ
 伊多利國人ガ佛蘭西國人ノ所有スル自國ノ公

債証各ヲ收・回シタルニ由レリト雖モ然レヒ千
八百六十七年ヨリ千八百六十八年ニ至ルマテ
佛蘭西ニ支辨ス可キ伊多利公債証各ノ利息額
ヲ減スルヤ唯二百八十万「ラ」ニ過ギサレハ
則チ以テ其運轉ノ徐遲ナリシ「ヲ」ヲ知ルニ足ル
可ク而シテ此ヨリ以降ハ特ニ尤モ然リトス千
八百六十八年ヨリ千八百六十九年ニ至ルマテ
其利息額ヲ減スルヤ僅ヌカニ百万「ラ」ニ過
キサリキ然レヒ千八百六十九年ヨリ千八百七
十二年ニ至リテハ其利息額ヲ減スルノ比例甚

ク著大ニシテ殆チ百分ノ三十ヲ減スルニ至レ
リ是ヨリ先キ千八百六十九年ニ於テ佛國ニ收
受シタル伊多利ノ公債利息額ハ八千三百万「ラ」
ラシナリシニ千八百七十三年ニ至リテハ僅カ
ニ六千百万「ラ」ニ出テス其然ル所以ノ者ハ
何ツヤ各外國人特ニ伊多利國人ガ我カ佛國ノ
戦争ノ時ニ際シ且ツ罷戦ノ以後ニ当リ我カ市
會ニ於テ伊多利公債証各ノ價格大ニ低下スル
ヲ時トシテ大約二千三百万「ラ」ノ利息ヲ支
辨ス可キ公債証各ノ多量ヲ我カ市會ニ買收シ

タルニ是レ由レリ此公債証各ノ價額ハ大約三
 億万ヲラジニ上レリト云フ此情勢タル読者容
 易ニ之ヲ瞭解スルヲ得可シ佛國ノ市會ニ於
 テハ戰爭ノ為メニ伊多利公債証各ノ價格ヲ低
 下セシメタルモ伊多利國ニ於テハ毫モ此影響
 ヲ被フル可キハ蓋シ疑ヲ容レズ當ニ
 伊多利ノ公債証各ノ然ルニ非ス他ノ外國公
 債証各ニ関シテモ亦同一ノ結果ヲ見ル可キハ
 読者ノ宜ク注思スベキ所ナリ
 土耳其ノ公債利息ヲ我カ佛國ニ支辨スル數額

ノ年々ニ減少シタルヤ之ヲ伊多利ノ公債利息
 ニ視フルニ其比例ノ強ヨ著大ナリシハ左ノ計
 表ニ就キテ徴見ス可シ

土耳其國公債証各ノ利息額

千八百七十年上半期	三百二十六萬五千六百二十ラビ
千八百七十二年下半期	五十二萬二千零八十一ラビ
千八百七十三年上半期	六十六萬五千二百二十ラビ
千八百七十三年下半期	七十二萬八千一百八十一ラビ
千八百七十四年上半期	一百七十一萬ラビ

此計表ニ依リテ之ヲ算スルニ土國ヨリ佛國ニ

支辨シタル利息額ハ千八百七十四年ニ於テハ
千八百七十年ニ比視スルニ大抵其半額ヲ減少
シタリ。若シ夫レ此兩年度ノ中間ニ於テ見ル所
ノ増減ハ復タ之ヲ精計セス何トナレハ則チ千
八百七十一年及ヒ千八百七十二年在リテハ
金貨ノ時價騰昂シタルヨリシテ我カ佛國ノ各
債主カ土國ヲ要シ其利息額ヲ外國ノ地ニ於テ
交付セシメタルヲ以テナリ人若シ佛普戦争以
前ニ於テ我カ佛國人民ノ殷富ニ一大部分ヲ占
メタル米令衆國ノ公債証各澳地利ノ公債証各

及ヒ其他外國ノ公債証各ヲ算計セハ則チ千八
百七十一年ヨリ千八百七十四年ニ至ルマテ各
外國公債証各ノ巨額ヲ外國ニ移出シタルヲ
知ル可シ其數額ハ實ニ十億万フランニ超過シ
タリ
佛國政府ガ巨額ノ償金ヲ普漏士政府ニ支辨ス
ルヲ得タルハ盡ニ此債券交換ノ一方ヲ行用
セルノミニ止マラス今斯ニ會計宰相レホシセ
ル氏ノ報告原文ヲ移寫シテ以テ此事ヲ証明セ
シ其報告各ニ曰ク我カ佛國ノ普國ト戦争ヲ開

大
政
官

リ以前ニ於テハ外國債券ヲ所有スル佛蘭西人
ノ其所有債券ノ利息ヲ收入スルニ由リ常ニ外
國ノ滙兌証票ヲ佛國ニ移送シテ其金額ハ毎年
實ニ六億乃至七億万ヲラシニ達シ之ニ加フ
ルニ佛國ニ來往シ若クハ一時寄留スル外國人
ノ外國ニ於テ收入スル金額ヲ將テ佛國ニ支消
スル有リ是レ亦タ滙兌ノ一原由ニシテ其數額
ノ如キハ人々ノ計算ニ異同有ルヲ免レスト雖
モ大約二億乃至三億万ヲラシニ下タラス然
レハ則チ佛國ノ戰爭以前ニ在リテハ外國ヨリ

佛國ニ移入スル滙兌金額ハ概略十億万ヲラシ
ニシテ此滙兌金額ハ更ニ之ヲ外國債券ヲ收買
ニ供充シ或ハ假令ハ輸出入ノ權衡ヨリシテ多
少差異ヲ見ル有ルモ貨幣ヲ以テ之ヲ佛國ニ收
入シタリ是ニ録リテ之ヲ觀レハ佛國ハ千八百
七十年ノ戰爭以前ニ在リテハ三年間ニ於テ容
易ニ三十億万ヲラシノ外國債券ヲ收買スル
ヲ得テ而モ貨幣ノ缺乏ヲ告クル如キ情況ヲ來
タスヲ無シ戰爭以後ノ三年間ニ於テモ亦能ク
同一ノ資本ヲ外國ニ得可シ縱使ハ此ヨリ減ス

ル下有ルモ尚ホ著シク其比例ヲ降下セシムル
ニ至ラサルナリト
千八百七十一年ヨリ千八百七十三年ニ至ルマ
テ佛蘭西國人ノ所有セル外國債券ノ利息ヲ佛
國ニ移入スル為メニ必要ナル外國滙兌ノ金額
ハ大約二十億万フランニ上レリ若シ試ニ佛
蘭西國人ガ此額外ニ於テ十億万若クハ十五億
万フランノ價直ヲ得可キ外國債券ヲ賣放セル
者ト做セハ則チ佛國政府ノ普國政府ニ支辨シ
タル五十億万フランノ價金五分ノ三ヲ滿スニ

足りシテ下ヲ領會ス可シ今又及履シテ之ヲ言ハ
ハ佛國ハ歐洲通用債券ノ功用ニ頼リテ實際自
國ノ貨幣ヲ外國ニ流出セシムルヲ無ク唯其所
有スル外國債券ヲ抛擲シ若クハ之ヲ貨幣ニ交
換シ以テ既ニ巨額ナル價金ノ大半ヲ支辨スル
ヲ得タリ彼ノ内國產物ノ輸出額ノ輸入額ニ
超過シタル價金ノ如キハ其實効之ニ次ク者ト
謂フ可シ
又佛國財主カ其見ニ所有スル外國債券ヲ賣放
シ其價金ヲ移シテ以テ内國ノ公債証各ヲ買收

スル如キ所謂ル債券交換ノ能ク其財主ニ利益
スルハ猶ホ其一國ニ利益スルト一般ナリ
凡ソ債券交換ノ事業ニシテ此時際ニ於ケル如
ク多ク其利益ヲ收メシメタル者有ルヲ見ス
戦争以前ニ於テハ各種ノ歐洲通用債券ハ大抵
佛國ノ小財主ガ厭弃スル所ノ者ナリシニ戦争
以後ニ至リ其價格ヲ戦争以前ニ比スレハ百分
ノ十五或ハ百分ノ二十或ハ百分ノ三十ヲ増セ
リ抑モ我カ佛國ノ敗斂ト普國ノ疲弊トハ適ク
以テ歐羅巴全洲ニ向テ将来数年間ノ平和ヲ保

タシムルニ足レル者ニシテ帝ニ歐羅巴各國ノ
公信用ニ利益シタルノミナラス土耳其埃及ニ
國ノ公信用ニ向テモ幾分ハ利益ヲ得セシメ且
ツ外國鑄造ノ如キニ至リテモ亦巨多ノ利益ヲ
收メシメタルヲ見ルナリ此ノ如ク歐洲通用
債券ノ一時其價格ヲ騰貴セシハ即チ佛國ヲシ
テ容易ニ公債ヲ募起スルノ機會ヲ得セシメタ
ル者ト謂フ可シ
伊多利ノ百五公債証各ノ時價ハ千八百六十七
年ニハ四十三「フラン」ヨリ五十六「フラン」間ニ

千八百六十八年ニハ四十一フランヨリ五十八
フランノ間ニ千八百六十九年ニハ五十一フラン
ヨリ五十八フランノ間ニ上下セシニ佛普戰
争以後ニ至リ佛國ノ小財主ニシテ之ヲ所有ス
ル者ハ六十フランヨリ六十九フランノ間ニ
於テ之ヲ賣放セリ澳地利ノ地券會社証券ノ時
價モ同一ノ景況ニ在リテ千八百六十七年ニハ
二百十六フランヨリ二百三十三フランノ間ニ千
八百六十八年ニハ二百三十三フランヨリ二百五
十五フランノ間ニ上下セシニ戦争以後ニ至リ

テハ二百七十五フランヨリ三百フランニ騰昂
セリ米利堅ノ百六公債証券ノ時價モ亦其景況
ヲ均クシ千八百六十八年ニハ七十九フランヨ
リ八十六フランノ間ニ上下セシニ戦争以後ニ
至リテハ百七フランヨリ百十フラン或ハ百十
四フランニ騰昂セリ魯西亞ノ百五公債証券ノ
時價ハ戦争以前ニ在リテハ八十五フランヨリ
九十二フランノ間ニ上下セシニ戦争以後ニ至
リテハ殆ト其表額ノ一百フランニ達シタリ又
埃及ノ公債証券及ヒ土耳其ノ公債証券ヲ所有

スル者ノ如キハ戦争以後ニ至リ其公債証各ヲ
賣放シテ以テ得タル所ノ利益ハ右モ多シトス
即チ土耳其公債証各ノ時價ハ千八百六十七年
ニハ二十七フラシヨリ三十四フラシノ間ニ千
八百六十九年ニハ三十七フラシヨリ四十、六フ
ラシノ間ニ上下セシニ戦争以後ニ至リテハ五
十フラシヨリ五十五フラシノ間ニ於テ之ヲ賣
放スルヲ得タリ埃及公債証各ノ如キモ亦此
ノ景況ニ異ナル所無シ
外國ノ鑄道採券及ヒ鑄道証券モ此數年間ニ於

テ其時價甚々騰昂ニ又外國ノ動産會社即チ西
班牙ノ動産會社及ヒ伊多利ノ動産會社ノ証券
ノ如キモ亦然リシガ故ニ我々佛國ノ小財主ハ
許多ノ贏利ヲ收メテ此類ノ信券ヲ賣放シ以テ
我々公債証各ヲ收買スルヲ得タリ
佛國政府ノ巨額ノ償金ヲ普漏士政府ニ交付ス
ルヤ多クハ匯兌ノ事業ニ涉リシ故ヲ以テ佛國
ノ大銀行ハ大抵直接若クハ間接ニ此ニ関與セ
サル者無シ而シテ歐洲通用信券ハ以テ殆ト匯
兌証票ニ代用ス可キニ由リ大銀行ヲシテ皆編

大
文
官

ク佛國內ニ散布セル歐洲通用債券ヲ收買シテ
以テ之ヲ外國ニ輸出セシムルニ至レリ是レ從
來我カ政府ノ公債ヲ募起スルニ際シテ未タ嘗
テ遇着セサル所ノ一景況ヲ當時ニ見ハシタル
所以ニシテ實際我カ國內ノ貨幣ヲ普漏士國ニ
輸出スルノ極ノテ少数ナリシト蓋シ此カ為メ
ナリトス千八百七十三年十一月刊行ハ「アラ
ス」号新聞紙ニ據レハ五十二億八千六百萬「アラ
シ」ノ總額内其三億二千五百萬「アラシ」ハ実物ヲ
以テ之ヲ抵償セリ即チ普漏士ニ割與セル「アル

ガス、ローレンス州内ニ敷築シタル鑄道線路ノ
價直ナリ又其四十一億五千一百万「アラシ」ハ滙
兌ノ方法ヲ以テ交付シ其二億九千八百万「アラ
シ」ハ銀行証券ヲ以テ交付シ而シテ唯残計ノ五
億一千二百万「アラシ」ニ貨幣ヲ以テ交付セリ
此貨幣ヲ細別スレハ二億七千三百万「アラシ」ハ
金貨トシニ億三千九百万「アラシ」ハ銀貨トス
是ニ繇リテ之ヲ觀レハ此ノ如キ巨額ノ償金ヲ
交付スルニ其貨幣ノ數額ハ實ニ甚タ僅少ナリ
シトヲ知ル可シ然レモ滙兌金額ノ四十一億五

千一百万フランに巨額に上りタル原因ハ果シテ何ニ在ルカ我々産物輸出額ノ輸入額ハ超過セル一事ハ其原因ノ一ニ居ルヤ疑ヒ無シ我々公債ニ外國人ノ加入セシ資本ノ如キモ亦其原因ノ一ニ居ルヤ疑ヒ無シ然リト雖モ其原因ノ大部分ヲ占ムル者ハ則チ巴黎ノ商人會場ニ於テ歐洲通用債券ヲ收買シテ獨逸ニ輸送シタル所ノ金額ニ存ス

今斯ニ千八百七十五年會計宰相「オニセ」氏ノ歲出入豫出報告ニ據リテ以テ償金ノ交付ヲ

完了シタル成跡ヲ舉示セシ佛國ノ普國ニ交付ス可キ償金ハ總計五十三億一千五百零五万八千八百五十三フランニシテ其額内五十億フランニハ即チ償金ノ本額ニ係リ三億零百十四万五千零七十八フランニハ即チ其利息ニ係リ一千四百六十一万三千七百七十四フランニハ即チ償金交付ノ費用ニ係リ而シテ之ヲ支辨スル下表ノ如シ

種別及ヒ數額表

西部鑄道價直

三億二千五百万フラン

佛國銀行証券	一億二千五百萬フラン
佛國金貨	二億七千三百万フラン
佛國銀貨	二億三千九百万フラン四分一
獨國銀行証券	一億零五百万フラン
獨國金銀貨	二十四億八千九百万フラン三分一
普朗	二億三千九百万フラン八分一
克堡	二億六千九百万フラン四分一
俺不爾	七千九百万フラン
ライヒマルク	二億五千零万フラン二分一
荷蘭	二億九千九百万フラン四分一
白耳義	

リーブルス
 通計五十二億一千五百万フラン
 本表ニ記セル
 此巨額ノ償金ヲ交付スルニ関シテ詳カニ歐洲
 通用債券ノ功用ヲ論明シタル所以ハ他無シ蓋
 シ其尤モ緊要ノ者ニ係ルヲ以テナリ抑モ歐洲
 通用債券ハ今時歐羅巴各國ノ通商ニ於テ重大
 ノ關係ヲ有ス之ヲ例セハ英國ニ於テ其輸入額

ノ輸出額ニ超過スル二十億万乃至三十億万ヲ
ラシノ金額ハ各種ノ財本ヲ以テ之ヲ補填スト
雖モ英國人ノ所有スル外國債券ノ利息額ヲ英
國ニ收入シテ以テ之ガ推衡ヲ持スル者其多キ
ニ居ルカ如シ

余ハ既ニ公債ノ一國ノ財計ニ影響ヲ及ホスノ
結果ヲ説示シタリ是レ輒今ニ至ルマテ理財家
ノ未タ嘗テ十分ニ闡發スルヲ得スシテ我口
政府ノ最後ノ大公債ヲ募起スルニ方リ始メテ
世人ノ明カニ領會スルヲ得タリシ所ノ者ト

ス今此ニ數語ヲ倩フテ以テ余カ既ニ講究シタ
ル所ノ現象ヲ約言セシ

夫レ公債ヲ以テ本来能ク富有ヲ増殖スル者ト
認ムルハ即チ謬見ニ出ルヲ免レス又公債ハ
恰モ右掌ノ左掌ニ借ルト一般ニシテ素ヨリ利
害ノ繫ルヲ無シト言ヘルハ亦均ク似非ノ論理
ニ屬ス抑モ公債ハ一國ヲ利スル為メニ暗ニ各
財主ノ資本ヲ收奪スル者タルニ由リ若シ苟モ
政府ガ此資本ヲ濫用浪支シ絶ヘテ之ヲ殖利ノ
事業ニ供充スルヲ無キニ於テハ則チ是レ一國

ノ損失ヲ来ス者タリ

又公債ノ一國社會ニ向テ節儉貯蓄ノ風習ヲ鼓
舞スル者タルハ素ヨリ疑ヲ容レズ但タ其貯蓄
額ハ以テ公債額ノ大部分ヲ満スニ足ラサル
ヲ知ラサル可カラズ又昔時ニ在リテハ公信用
ノ私信用ヲ擴張シ公債証各ノ各種ノ動産債券
ヲシテ陋室矮屋ノ細民ニ信用ヲ取ラシメ以テ
其膏テ貯藏シタル貨幣ノ大數ヲ減セシムルノ
良結果ヲ見ハセリト言フハ蓋シ其實ヲ得タリ
之ヲ要スルニ公債ハ各人私己ノ起業ニ供給ス

ル動資本ヲ減セシムル者タリト雖其減額ノ
常ニ以テ公債額ノ大半ニ比当ス可キ巨額ニ上
ル如キハ純ヘテ見サル所ナリ抑モ公債額ノ一
分ハ喻利者ノ其窖藏ヲ減シテ之ニ供シ又其一
部ハ節儉者ノ其貯蓄ヲ増シテ之ニ供シ又其一
部ハ縦令ヒ一時ニ係ルモ外國人ノ其資本ヲ得
テ之ニ供ス夫レ公債ノ動資本ヲ收奪スルマ其
程度ハ決シテ之ヲ豫定ス可カラサルモ富饒殷
盛ノ邦國ニ於テハ此三種ノ資本ノ公債ニ混入
シテ頗ル著大ノ功用ヲ見ハサバルハ莫シ

今時歐洲普通信用ノ能ク樹立スルヤ各國政府
ニ於テ公債ヲ募起スルノ極メテ容易ナルハ歐
州通用債券ノ存スルニ職由ス其故何リヤ蓋シ
公債ヲ募起スル邦國ノ財主ハ其所有スル歐洲
通用債券ヲ賣放シ其價金ヲ移シテ自國ノ公債
ニ加入シ而シテ外國ノ財主ハ其債券ノ時價正
サニ低下スルニ乘シテ之ヲ買收スルヲ以テナ
リ是レ亦タ起債邦國ガ其公債証各ヲ外國ニ流
出セシムルヲ無クシテ能ク其資本ヲ外國ニ收
得スルノ一方法ナリトス此ノ如クシテ外國ニ

收得スル資本ノ數額ハ亦以テ自國ノ動資本ヲ
收奪スルハ寡キヲ加ヘシムルニ至ルハ詭者ノ
宜シク注意スベキ所ナリ
上文ニ約説スル所ニ説キテ之ヲ觀ハ公債ハ必
スシモ全ク之ヲ廢スルヲ要セス又或ル景況
ニ方リテハ寧ロ稅租ヲ增課スルニ優レル者有
ルヲ証徴スルニ足ル可キナリ

